

エバワツ



(Grace. 1)

2012 夏季号 101

北海道ボランティア・レンジャー協議会

目 次

101号 夏季号

- ・巻頭言 驚きの地球 (科学が解き明かした驚きの地球の姿)
会長 春日 順雄
- ・追悼 大友健氏を偲ぶ
顧問 札幌市 田村 允郁

- 1 今年度総会から
・総会、学習会の報告 広報部
・総会資料 (総括、活動方針など)

- 2 自然観察会から
・塩谷丸山自然観察会に参加して 小樽市 小林真理子
・春の森の息吹から、生の充実感を得て 札幌市 堺 典子
・春のありがとう観察会に参加して " 鎌田 洋
・自然のなかに浸る貴重な時間 " 藤森 由美
・野鳥のラブソング聴き、原発再稼働の" 政治判断" を怒る
札幌市 浅見 文貴

- 3 調査、研究、報告などから
・ヒグマの生態 千歳市 宮本 健市
・中学生が学ぶ植物分類 (下見資料) 札幌市 加納 勝義
・野幌森林公園観察会 (下見資料) " 道場 優

- 4 連載
・ゴールのこと 苫小牧市 谷口勇五郎

- 5 案内、報告、連絡など
・今年度「ボランティア・レンジャー育成研修会」案内 ふれあい交流館
・NOW 1号、3号 道場さん、谷口さん 執筆
・事務局便り 事務局

<編集後記>

驚きの地球

(科学が解き明かした驚きの地球の姿)

春日 順雄

襟裳岬沖から房総半島沖まで連なる日本海溝は、太平洋プレートの沈み込みの場所です。昨年、3月11日発生 of 東北地方太平洋沖地震発生 of メカニズムの説明にも登場します。地球がいくつかのプレートに分かれ、それが動いているというプレートテクトニクスの考えの登場は古い話ではありません。

ドイツの気象学者アルフレート・ヴェーゲナーが大陸移動説を提唱したのは1912年です。しかし、それは当時の学会からは受け入れられませんでした。私が学生時代を過ごしたのは、1950年代後半でしたから、造山活動や地層の褶曲などは、地向斜という考えで教わりました。ネットで調べたら次のように出ていました。『地向斜理論は、地殻変動と地質特性を説明する垂直地殻変動に関する理論だが、プレートテクトニクスにとって変わられた古い理論である。』と。

1960年代後半以降に地球科学の学説として「プレートテクトニクス理論」が出てきます。大陸移動は、紛れもない事実です。地球の大地を観察・測定した結果の累積は、大陸移動を是認する以外、説明が出来なくなったのです。理論先行よりも観察結果が「プレートテクトニクス」の考えを生み出したのです。

この様にして明らかになってきた大地の変遷は驚きの連続であります。

約10億～7億年前に、「ロディニア大陸」誕生。現在の太平洋地域に、やや南半球寄りに形成されたと考えられています。

約6億年前、「ゴンドワナ大陸」誕生。「ロディニア大陸」が分裂して、「ゴンドワナ大陸」という大きな大陸と小さな大陸が誕生します。

その後、「ゴンドワナ大陸」は、北上して赤道付近にあった「ローレンシア大陸」と衝突して「パンゲア大陸」の一部となります。「パンゲア大陸」は、ペルム紀から三畳紀にかけて存在したと考えられている超大陸です。

約1億8000万年前、「パンゲア大陸」は、「ローラシア大陸」と「ゴンドワナ大陸」に分裂します。

恐竜が大繁栄していたのがジュラ紀・白亜紀の頃ですから、パンゲア大陸・ローラシア大陸・ゴンドワナ大陸を闊歩していたことでしょう。そして、これらの大陸の分裂や衝突の果てに現在の陸地があるわけです。

さて、現代の科学がかくも何億年も前の地球の様子を再現できるのは、緻密な観察と測定とそれを支える分析の技術でありましょう。

地球誕生は今から46億年前などと、地層誕生の年代を特定出来るのは、岩石中に含まれる放射性元素の放射壊変はきわめて規則正しく進行しますから、その分析によってもたらされます。

地球上のどの緯度にあったかは、古磁気の測定によって知ることが出来ます。『火成岩類は、マグマが冷え固まるときに中に含まれる磁性鉱物が地球磁場の方向に磁化し、磁気の「化石」—残留磁気を獲得します。堆積岩においても、磁性鉱物が堆積し、固結したときに磁性鉱物が地球磁場方向に配列し残留磁気

を獲得します。この残留磁気を用いて、地球上のどの緯度で岩石が形成されたかを知ることが出来るのです。』(平 朝彦著「日本列島の誕生」より引用)

地球内部の様子を知るとは至って難しいことです。ボーリングをしても、地球の大きさを考えると、その深さはたかが知れています。地震の際の地震波の伝わり方の測定・人工地震を起こし地震波を測定・観察するなどの方法で、その知られざる内部の解明の研究が続けられています。巨大な地球の肌に針のひと突きの様な聴診器による観察・診断であります。

反射式人口地震波探査(エアガンと呼ばれる発音装置を船から曳航して、数十ヘルツ程度の周波数の大きな音を出し、その反射によって地下構造を調べる手法)による海洋底の観察結果も驚きであります。茨城県の鹿島沖150キロでは、第一鹿島海山が日本海溝に沈み込もうとしています。玄武岩質の頂上からは浅海を示す化石が採取されましたから、4千メートルも沈み込んだことになります。襟裳岬南東約300キロメートル、千島海溝と日本海溝の接合点のあたりでは、襟裳海山が日本海溝に沈み込もうとしています。まさに、プレート移動の現場を見るという感じであります。

今話題となっている南海トラフでも反射式人口地震波探査が行われました。その結果、海底の玄武岩層の上に約1000メートルの堆積物があることが分かりました。その堆積状態は「乱泥流」起源の砂層(河口などでいったん降り積もったものが、地震などが引き金となり、雪崩のように海底を流動して再び堆積する現象のことを「乱泥流」あるいは「乱濁流」とよんでいます)と通常時に降り積もった泥層が交互に積み重なる状態であったのです。泥層の厚さと堆積速度を勘案すると500年おきに乱泥流が発生していることが推測されました。この乱泥流堆積物はどこから来たのか。この中に含まれる火成岩を調べたら伊豆・箱根火山帯に特徴的に出てくるピジョン輝石を含むことが分かりました。南海トラフの乱泥流堆積物は富士川を中心とする駿河湾沿岸域起源ということが分かったのです。南海トラフと駿河湾沿岸との距離はおおよそ600キロです。過去、おおよそ500年おきに何らかの引き金(おそらく巨大地震でしょう)で、乱泥流が発生し、600キロを駆け下る。まさに驚きです。そして、今「南海トラフ巨大地震」が心配されています。

6月9日(土)NHK特集「大変動期 最大のシナリオに備えろ」が放映されました。これまでの世界中の例では、巨大地震の後、大噴火などの異変が起きています。今年の3月11日の東北地方太平洋沖地震以降、日本の火山・日本列島地下でも変化の兆しが見られます。最悪シナリオとして、富士山噴火と首都圏直下型地震を想定した恐ろしい内容でした。弧状列島日本は、宿命的に火山と地震の巣窟です。それが大きな変動期に入って来ているのではということです。

青い空・青い海・青く連なる山々・水は清く、平穏な時の自然はいかほどに私たちの心を和ませてくれているでしょう。しかし、ひとたび変動が起きると、これほど恐ろしいものはありません。逃れることは出来ません。何とか軽微に受け流す工夫と備えが必要でありましょう。

大友 健 氏を偲ぶ

札幌市東区 田村 允郁

先日、大友 健氏の訃報に接し、氏との様々な思い出とともに自然観察に関する含蓄あるご指導が頭をよぎります。

大友氏は1986年に発足した本会の副会長として、会長の河村 千束氏を補佐し会の基礎を固めるべく努力されました。1992年、会長に就任し2000年3月まで会の発展に尽くされました。体調を崩されリハビリに励む毎日だとお聞きしていました。大友健氏と私の関わりは、広報部を担当していた関係で、年4回発行される広報誌の巻頭言の原稿依頼や緒活動の連絡等でした。特に原稿をお願いする時は、快く引き受けていただき、その時々話題やテーマを取り上げ、私たち会員を啓発していただきました。私の手元にある「エゾマツ」1996年No38に巻頭言「10年の歩みを顧みて」の一部を抜粋させていただき、ボラレンに対する大友氏の思いを振り返りたいと思います。

…そもそも私たちの活動の原点は、ボランティアによる自然に親しむ運動の社会奉仕であることも忘れてはならないことの一つである。自分にあった身の回りのことから手掛け、相手のニーズに併せて長く継続して活動することが大切で、さらに協力者・援助者であるという謙虚さのうちにも、絶えず学習をし、自分を成長させるという主要な心構えを見失うことなく素晴らしい自然環境の形成維持のための社会奉仕の一員という自覚である。…

(1996. 10. 20 エゾマツNo38 10周年特集号 巻頭言より)

現在も受け継がれているボラレンの観察会や下見の取り組みも、創世期の会員の方々の地道の努力、とりわけ大友健氏のリーダーシップによるところが大であることは言うまでもありません。

生前、本会の基礎を固め、さらに2代目会長として活躍された大友健氏に感謝申し上げます共に哀悼の意を捧げます。

第27回 定期総会(4月14日)

- * 事業、会計報告、今年度の事業計画などを承認しあう
- * 会長に春日さん、事務局長に室野さんを再選
- * 新役員に松井さん、大藤さん、大表さん、クローズ千鶴子さん

- * 研修会では、講師の佐野亮二さんからオホーツ支部での貴重な活動報告

《**研修会**》 まず、総会の始まる前、1時30分から研修会が行われた。最初に、オホーツク支部の法師人さんから、支部活動全体の報告があり、続いて佐野さんから長年、取り組んできた活動状況のレポートがあった。それぞれ、パソコンからのきれいな映像、多彩な活動をわかりやすく説明され、とても感動的であった。

支部長の法師人さんは、とうふつ湖での白鳥調査協力、遠軽町、湧別町との協力事業、昨年度の知床での研修会、機関誌「流氷」などについて話された。

副支部長で講師の佐野さんから、教育委員会との協力で、子どもたちに木工作り、巣箱、リースづくりなど活動の様子が紹介された。その作業では、安全を第一に心がけると共に、子どもたちの関心を高めるようにさまざまな工夫がされていた。佐野さんは、いろいろな団体と協力関係をつくりながら森林教室など多彩な活動をされているが、ボラ・レンの活動が根底にある、と嬉しい総括的な話しをしてくれた。なお、佐野さんの林業経営など大きな仕事に対する受賞は総会資料の後半部をぜひ参照ください。

《**定期総会**》 総務部長の三崎さんから、参加者30人、委任状を含めて合計133の参加で総会が成立との報告。(会員174人、76%の参加率)

春日会長は、昨年は会員が40人も増えたこと、帯広支部が結成されたことなど組織として大きく発展してきた。今後も地道な活動を通して、更に大きな組織にし世代交代もしていきたい。今年は遠くから来られたオホーツク支部、帯広支部そして夏の北大演習林での研修を準備されている旭川からの代表に敬意を述べられた。

来賓として参加してくれた、道の生物多様性保全グループ主査の黒田勝巳さんから、私たちの運動への励ましのメッセージ、今日の自然環境をめぐる状況などが話された。自然ふれあい交流館の副館長の松井則彰さんから昨年の入場者は一昨年と同じ位で、観察会に参加した人たちのアンケートによると、私たちの解説活動に対しては9割位の人たちが満足しているという、嬉しい報告をしてくれた。休日にかかわらず、総会に来ていただいた二人の来賓から温かい励ましの言葉をいただいた。 <総会>資料後半に続く。

平成24年度 第27回定期総会日程

日時	平成24年4月14日(土曜日)	13:00~16:30
会場	札幌市東区民センター3階	講義室
受付	13:00~13:30	
研修	13:30~14:50	
総会	15:00~16:30	

《研修会》

講師：佐野 亮二

演題：「ボラレンオホーツク支部の活動から・・・」

講師の経歴 オホーツク支部 副支部長

遠軽町丸瀬布の指導林業家として社会教育に貢献

平成23年度・北海道産業貢献賞、平成22年度・林業経営・林野庁長官賞

《定期総会》

司会進行

三崎 篤氏

(出席・委任状・総会成立確認)

1. 開会

2. 会長挨拶 春日 会長

3. 来賓紹介と来賓挨拶

北海道環境局自然環境課生物多様性保全グループ 主査

黒田 勝巳氏

北海道自然ふれあい交流館副館長(指定管理者 一般法人北海道開拓の村)

松井 則彰氏

4. 議長・議事録署名人・選考委員の選出

5. 議長就任挨拶と議事録署名人・選考委員の紹介

6. 議事

1号議案

・平成23年度事業報告

・平成23年度決算報告ならびに監査報告

2号議案

・平成24年度事業計画(案)

・平成24年度収支予算(案)

3号議案

・役員改選

・その他

7. 議長退任

8. 閉会

《連絡事項》懇親会「北のささや」北区北7条西1丁目 NSSビル地下1階 18:00~

1号議案

1. 平成23年度事業報告

(1) 観察会・研修事業

(研修部)

月	行事名	実施月日	下見 話題提供	集合・解散場所	主・共催	参加者	担当
4	第26回 定期総会・研修会・懇親会	16日(土) 13:30~20:00		札幌エルプラザ2F 環境研修室		来賓2名 会員38名	
	春の花を見つけよう(野幌) エゾユズリハ～志文別～大沢	21日(木) 10:00~12:30	20日(水) 道場 優	交流館集合・解散	共催	下見13名 一般 75名会員13名	室野、内山
	セイヨウオオマルハナバチ防除(野幌)	30日(土) 10:00~12:30	29日(金) 宮本健市	開拓の村入口 エゾムラサキツツジ	主催	下見8名 一般 2名・会員5名	宮本、室野、 牧
5	春のありがとう観察会(野幌) A:(四季美～カヅラ)、B:(ふれあい～瑞穂の池)	8日(日) 10:00~14:30	7日(土) 春日順雄	交流館集合・解散	共催	下見8名 一般29 名 会員12名	春日、小林
	恵庭公園観察会	22日(日) 10:00~12:00	21日(土) 小林英世	恵庭公園中央駐車場集 合・解散	主催	下見8名 一般13 名 会員6名	小林、横場
	三角山登山観察会	29日(日) 10:00~14:00	28日(土) 菅美紀子	縄花会館登山口集 合・解散	主催	下見10名 一般 17名会員6名	菅、熊野
6	森の新緑観察会(野幌) エゾユズリハ～志文別～大沢	5日(日) 10:00~12:30	4日(土) 吉田政徳	交流館集合・解散	共催	下見13名 一般 85名会員10名	室野、吉田
	北広島レクの森観察会	12日(日) 10:00~12:30	11日(土) 室野文男	レクの森入口集合・解散	主催	下見14名 一般 14名会員5名	佐藤、我妻
	アポイ・様似研修会	18(土)~19日 (日)13:00		様似町 アポイ研修所	主催	会員18名	小林、春日
7	初夏の森・豊満別観察会(野幌) 森林の家～カラマツ～樹木園～原の池	3日(日) 10:00~12:30	2日(土) 宮本健市	豊満別駐車場 集合解散	主催	下見18名 一般 10名 会員8名	室野、土屋
	芸術の森周辺観察会	10日(日) 10:00~12:30	9日(土) 成田伸一	芸術の森停留所前集 合	主催	下見13名 一般3 名 会員5名	今村、三崎、 成田
	東大演習林研修会	15日(金)~18日 (土)13:00		富良野市麗都 麗都資料館前	主催	会員 22名	小林、春日
	オオハンゴンソウ防除(野幌)	24日(日) 10:00~12:30	23日(土)	交流館集合・解散	主催	下見 8名 一般 14名 会員13名	室野 佐藤(清)
8	夏の森の観察会(野幌) 瑞穂線～瑞穂の池～記念塔～開拓の沢	4日(木) 10:15~13:30	3日(水) 熊野美子	開拓の村集合・解散 記念塔(昼食)	共催	下見会13名 一 般64名会員14名	菅、伊藤
	鶴川研修会	20日(土)~21 日(日)13:00		むかわ町四季館	主催	会員 12名	小林、門村
9	秋の花でにぎわう森を歩こう(野幌) エゾユズリハ～志文別～四季美～カヅラ	11日(日) 10:00~14:30	10日(土) 伊藤秀平	交流館集合・解散	共催	下見10名 一般 88名・会員8名	内山、室野
	キノコの研修会(1)	15日(木) 10:00~14:00		道民の森 月形陶芸館 前駐車場	主催	会員 16名	内山・松原
10	キノコの研修会(2)	5日(木) 10:00~14:00		道民の森 月形陶芸館 前駐車場	主催	会員 13名	内山・松原
	秋の森の匂いをかごう(野幌) 開拓の沢～ふれあい～交流館～瑞穂の池	13日(木) 10:15~14:30	12日(水) 土屋志博	開拓の村集合解散(交 流館昼食)	共催	下見11名 一般 95名会員8名	春日、室野
	北海道ボランティア・レンジャー 育成研修会(野幌)	21日(金)~23 日(日)		交流館・野幌森林公園 内	共催	受講者28名入会 者20名	菅、室野
	晩秋の森観察会志文別コース(野幌)	3日(木) 10:00~14:30	2日(水) 牧 茂	交流館集合・解散	主催	下見9名 一般23 名 会員15名	佐藤、室野
11	秋のありがとう観察会(野幌) A:大沢・カヅラ B:ふれあい・瑞穂連絡	13日(日) 10:00~12:30	12日(土) 今村ひろこ	交流館集合・解散	共催	下見13名 一般 75名会員13名	小林、土屋
	西岡水源地自然観察会	23日(水) 10:00~12:30	22日(火) 道場 優	管理事務所前集 合・解 散	主催	下見8名 一般8 名・会員10名	三崎、道場
1	円山登山観察会	15日(日) 10:00~12:30	14日(土)	円山登山口集合・解散	主催	下見9名 一般5 名・会員12名	熊野、菅
2	冬の森の観察会(野幌) 大沢～志文別～エゾユズリハ	12日(日) 10:00~12:30	11日(土) 加納勝徳	交流館集合・解散	共催	下見13名 一般31 名・会員16名	室野、牧
3	森の中で春をさがそう(野幌) 大沢～志文別～エゾユズリハ	25日(日) 10:00~12:30	24日(土) 成田伸一	交流館集合・解散	共催	下見11名 一般40 名会員14名	室野、成田

観察会参加者 下見会 会員=209名、本番 一般参加者=685名 会員=193名 研修会参加者 会員=119名 育成研修会協力会員=14名

(2) 地方支部の活動報告

I. 小樽支部

梅原 敏行氏

実施日	行き先	一般参加者	ボラレン	補助員	合計	備考
5月6日(金)	オタモイ～赤岩	20	3	8	31	
6月11日(土)	軍事道路	28	4	2	38	
7月23日(土)	ニセイカウシュベツ山	9	4		13	
9月10日(土)	銭函・天狗岳	15	1	2	18	
10月22日(日)	五百羅漢・潮見台	22	1	3	26	
11月12日(土)	天狗山	12	6	2	20	納会
2月4日(土)	穴滝	14	5	2	21	カンジキ歩き
3月24日(土)	塩谷円山	19	5	2	26	カンジキ歩き
合計		139	29	21	189	

※小樽支部会議 3月22日、4月1日より小樽支部長は北原 武氏から北嶋 徹氏へ交代

II. オホーツク支部

法師人春輝氏

○オホーツク支部秋季研修会 参加者 13名 (エゾマツ98号、P30～32参照)

◆とき：9月3日(土)～4日(日)

◆ところ：「知床岩尾別ユースホステル」－知床アウトドアガイドセンター

9月3日 16:30～18:00 研修会

講師：関口 均氏(知床岩尾別ユース代表)

テーマ：「ヒグマの生態と人との共存について」

18:00～ 懇親会

9月4日 8:00～10:30(観察会)

知床五湖めぐり

○機関紙「流氷」の発行

III. 十勝支部

小野寺 実氏

○十勝支部の設立総会・帯広野草園の観察会 参加者 札幌 4人、帯広 4名、釧路 1名
日時：6月26日 11:00～12:00 帯広市野草園 13:00 総会 会長 小野寺、事務局 長谷川

○秋田津の森観察会を実施 9月25日

IV. 北海道大学雨龍研究林研修会の準備

芦田 孝氏

○北海道大学雨龍研究林との打ち合わせ、12月～1月

(3) 研修会事業

(研修部)

- ① 4月16日(土) 13:30~14:50 「総会時研修会」 札幌エルプラザ・環境研修室
 参加者 38名
 ◇テーマ ボラレン小樽支部活動の十数年・・・前田一步賞を受賞して
 「クロスズメバチの話」「小樽の植物について」
 講師 小樽支部長 北原 武氏
- ② 6月19日(土)~20日(日)「アポイ・様似研修会」 参加者 18名
 集合場所 アポイ岳研修センター
 ◇テーマ 高山植物の圃場の笹刈り・カンラン岩地域の植物
 案内人 アポイファンクラブ・様似町商工観光課 佐々木 泰氏
 ※アポイ岳ジオパークのブログで紹介される。
- ③ 7月15日(金)~16日(土)「東大演習林研修会」 参加者 22名
 集合場所 富良野市麓郷資料館前 宿泊 ニングルの管理棟
 ◇テーマ 東大演習林と白銀温泉の自然
 案内人 東大演習林スタッフ、 富良野 南部栄一氏
- ④ 8月20日(土)~21日(日)「鶴川研修会」 参加者 12名
 集合場所 むかわ町道の駅 四季館 宿泊 ふれあい町民会館
 ◇テーマ 鶴川河口の野鳥と海浜植物
 案内人 ネイチャー研究会 in むかわ 門村徳男氏、小山内恵子氏
- ⑤ 9月15日(木) 日帰り 「キノコ研修会」 参加者 16名
 集合場所 道民の森 月形入口 陶芸館前駐車場
 案内人 松原健一氏
- ⑥ 10月5日(木) 日帰り 「キノコ研修会」 参加者 13名
 集合場所 道民の森 月形町入口 陶芸館前駐車場
 案内人 松原健一氏

(4) 観察会下見会を研修の場としての充実をはかるため「話題提供者」を設定した。

- 道場優さん 「野鳥入門」 4月20日(木)、11月22日、
 宮本健市さん 「昆虫入門」 4月29日、7月2日、
 成田伸一さん 「サクセッション」「地質入門」 7月9日、3月24日
 春日順雄さん 「さくら」 5月7日 小林英世さん 「すみれ」「観察会のネタ」5月21日
 菅美紀子さん 「やましゃくやく」 5月28日 吉田政徳さん 「花の進化」 6月4日
 室野文男さん 「シダ植物」6月11日 熊野美子さん 「身近な樹木の話」8月3日
 伊藤秀平さん 「竹の話」 9月10日 土屋忠司さん 「おさむし」 10月12日
 牧 茂さん 「クマゲラ」11月2日 今村ひろ子さん 「木の話」 11月12日

(5) 広報誌「エゾマツ」の発行

(広報部)

6月24日(金)	エゾマツ春季号	97号
10月27日(木)	エゾマツ秋季号	98号
1月26日(木)	エゾマツ冬季号	99号
3月28日(水)	エゾマツ	100号

(6) 自然観察 NOW の発行 (主・共催の観察会に配布)

(広報部)

4月21日(木)	No.1	(春日順雄)「ヤナギ」
5月8日(日)	No.2	(道場 優)「スプリング・エフェメル」
5月8日(日)	特別号	(五十嵐一夫)「木の葉の展開の時期と開き方」
6月5日(日)	No.3	(吉田政徳)「花の進化について」
8月4日(木)	No.4	(田村允郁)「諺から学ぶ」
9月11日(日)	No.5	(内山恭子)「ススキとオギ」
10月14日(木)	No.6	(室野文男)「野幌森林公園の施設管理区域、自然観察会の歴史」
11月13日(日)	No.7	(谷口勇五郎)「キツツキ」「ゆきむし」「シダ植物」
2月12日(日)	No.8	(佐藤清一)「雪、動物の足跡」「冬芽」
3月25日(日)	No.9	(小林英世)「雪虫って?」

(7) 他団体への協力・派遣事業

(事務局)

①北海道環境道民会議

総会への参加 室野1名 各団体の環境団体の環境保全への取りくみが発表された。
 ※道民会議からのイベント等の情報連絡をボラレンのメーリングリストで行った。

②道立野幌森林公園管理運営協議会

清掃活動

5月26日(木)	「クリーンクリーン野幌森林公園」	5名参加
10月20日(木)	「クリーンクリーン野幌森林公園」	7名参加

(8) 会議

(事務局)

第1回役員会議	5月6日(金)	18:30~20:30	札幌エルプラザ	2F	会議コーナー
第2回役員会議	8月26日(木)	18:30~20:30	札幌エルプラザ	2F	会議コーナー
三役・部長会議	12月9日(金)	18:30~20:30	札幌エルプラザ	2F	会議コーナー
第3回役員会議	1月27日(金)	18:30~20:30	札幌エルプラザ	2F	会議コーナー
第4回役員会議	4月7日(土)	18:30~20:30	札幌エルプラザ	2F	会議コーナー

(9) 育成研修会の取り組み

(研修部・事務局)

8月4日(日)	夏森観察会終了後	育成会担当者会議(菅、室野、内山)
8月26日(木)	第2回役員会議	
9月14日(水)	18:30~20:30	育成研修会協力者会議 札幌エルプラザ2F 会議コーナー
10月19日(金)~21日(日)	育成研修会	野幌森林公園 自然ふれあい交流館
11月16日	18:30~	育成研修会反省会 サッケンビル地下「ボレール」

(10) 広報活動

- ① 観察会チラシの作成・配布
- ② 自然ウォッチングガイドへ掲載依頼 (主催観察会事業の広報)
- ③ ホームページの観察会事業インフォメーションの更新
- ④ メーリングリストの普及、登録管理
- ⑤ まんまる新聞への掲載依頼 (野幌森林公園の主催事業)

(11) ボラレン活動の全道的な活性化を目指す試みの成果

- ① 育成研修会受講者でボラレンに加入していない人への参加の働きかけを行う。

平成 23 年度 20 名が入会

- ② 支部立ち上げの機運が出てきた時には、積極的に支援します。

平成 23 年度 6 月 26 日 十勝支部の設立

< 総会 > 続き。

議長に千葉さん、議事録確認に阿部さん、原田さんを選出して議事に入る。第 1 号議案、< 23 年度事業報告 >。まず支部報告に入り、小樽支部長の梅原

さんより観察会での参加者数、活動状況、オホーツク支部長の法師人さんから知床での研修、帯広支部長の小野寺さんから支部結成、活動の様子、旭川の芦田さんから今夏予定している北大研究林での研修などについて話された。続いて



事務長室野さんからの全体的報告、会計から会計報告、監査などが報告された。それらを参加者で確認しあい、承認しあった。

第 2 号議案< 今年度の事業計画、会計予算 >などが提案された。

「育成研修会」には若い人たちが参加できる態勢、をいう意見があり、今後検討していくことになった。第 2 号議案も確認、承認された。

第 3 号議案、< 役員改選 >に入る。会長、事務局長などが再選され、新しく松井玲子、大藤幹、大表順子、クローズ千鶴子さんが選ばれた。

今後は、新役員の人たちと力を合わせて大きな組織的な運動をつくってきたい。なお、長年会計をされていた橋場さんが退任された。ご苦労さまでした。

(広報部)

2. 平成23年度決算報告ならびに監査報告

平成23年度収支決算書(案)

平成23年4月1日～平成24年3月31日

収入額 824,224円

支出額 555,765円

差引 268,459円(次年度へ繰越)

収入の部

単位:円

項目	予算額	決算額	予算対比	摘要
前年度繰越金	288,789	288,789	0	
年会費	405,000	489,000	84,000	163件×3000
雑収入	46,211	46,435	224	保険料、協力謝礼金
合計	740,000	824,224	84,224	

支出の部

単位:円

項目	予算額	決算額	予算対比	摘要
総務部費	180,000	197,168	17,168	事務用品費、振替手数料、会議費、腕章他
事務局費	100,000	92,072	▲ 7,928	通信費、事務用品費、印刷費
研修部費	130,000	59,492	▲ 70,508	研修会謝礼金、研修雑費
活動費	150,000	48,274	▲ 101,726	地方支部活動費
広報部費	130,000	125,759	▲ 4,241	会報エゾマツ制作費、郵送費
予備費	20,000	0	▲ 20,000	
仮受金		3,000	3,000	
特別会計	30,000	30,000	0	特別会計へ繰り入れ
合計	740,000	555,765	▲ 184,235	

特別会計(特別積立金)

単位:円

前年度繰越金	増加額	減少額	本年末残高	摘要
351,223	30,089	0	381,312	一般会計より繰入30,000・貯金利息89

平成23年度財産目録

平成24年3月31日

単位:円

借方		貸方	
通常貯金	652,771	一般会計繰越金	268,459
		仮受金	3,000
		特別積立金	381,312
計	652,771	計	652,771

備品

救急医療セット1箱・聴診器5本・望遠鏡2台

双眼鏡15台・簡易アイゼン5脚

監査報告書

私たち監事は、会則第12条の5に基づき、平成23年4月1日から平成24年3月31日までの会計処理について、会計帳簿および証憑書類を精査確認した結果、適正なものと認めます。

平成24年4月7日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

監事 成田 伸一

監事 高松 文雄

2号議案

1. 平成24年度事業計画

(1) 事業計画の方針

目標「自然との共存、日常の実践から」

重点

- ①会員の意見や社会の要請を受け止め、会の活動改善に生かす。
- ②観察会と研修会の充実につとめる。
- ③育成研修会での入会者の勧誘につとめる。
- ④全道的な視野に立つ。

具体化の視点

- ①ボラレンの進む方向と活動領域の広がりを模索する。
- ②会務のシステム的な遂行を試みる。
- ③育成研修会のボラレン担当部分の充実につとめる。
- ④主催事業のPRにつとめる。
- ⑤メーリングリストを有効に活用する。
- ⑥ホームページの充実を試みる。
- ⑦ボラレン活動の全道的な活性化を目指す。平成24年度も継続する。

●支部を代表して総会出席者への旅費の助成

《会のカラーとして》

○ボラレンの活動することが楽しい、楽しいコミュニケーションがある。

(2) 会議 (研修会の日程が重なった場合や会場が確保できない場合は日程や会場を変更する場合があります。1ヶ月前にハガキの案内状を送付します。)

①定期総会 (平成25年度) 予定

平成25年4月20日(土) 札幌エルプラザ 会議室 or 環境研修室 ✓

②役員会議 予定

第1回役員会議	5月10日(木)	18:30~20:30	札幌エルプラザ	2F	会議コーナー
第2回役員会議	7月22日(日)	13:30~15:30	自然ふれあい交流館		セミナールーム
第3回役員会議	1月27日(金)	18:30~20:30	札幌エルプラザ	2F	会議コーナー
第4回役員会議	4月13日(金)	18:30~20:30	札幌エルプラザ	2F	会議コーナー

※第2回役員会議はオオハンゴンソウ防除の後に行う。8月の育成研修会対応のため

(3) 観察会・研修会・調査活動

- ①観察会については別紙による。またサークル活動の観察会があれば随時実施する。
- ②研修会については別紙による。会員の要望と必要に応じ実施する。
- ③研修会、講演会の実施により、会員の資質の向上を図る。
- ④観察会、研修会の報告は担当者がメーリングリストで行う。
担当者がメーリングリストを使用できない場合はFAX、文書などで事務局へ連絡する。

(4) 活動領域の広がり

特定外来生物の防除

①北海道のセイヨウオオマルハナバチの防除への参加

5月7日 10:00～12:30 野幌森林公園 開拓の村入口 集合

②野幌森林公園のオオハンゴンソウ防除

7月22日 10:00～12:30 野幌森林公園 自然ふれあい交流館 集合

(5) 北海道ボランティア・レンジャー育成研修会への協力

①実施日：平成24年8月24日（金）～26日（日）

②育成研修会での新会員の確保に努める。

(6) 他団体への協力

①観察会のガイド要請については、主催の目的などを把握して協力していく。

②各関係機関や団体が行なう自然環境保全に関わる行事や調査には参加していく。

(7) 広報誌「エゾマツ」の発行

①年4回（6月下旬、10月下旬、1月下旬、3月下旬）の発行

②誌面内容と体裁の充実に努力していく。

③共催自然観察会の一般参加者に「自然観察 NOW」の配布 年9回

(8) 支部や地方会員の活動の活性化

①支部や地方会員の活動に参加する。

②各会員の思いや要望の発信を受け止めたり、広報誌による交流を活性化させる。

③メーリングリストによる情報発信による交流、(地方の自然魅力の発信)

(9) 広報活動

①ホームページによる観察会、育成研修会の情報を発信する。

②自然ウォッチングやエコポロ、まんまる新聞への情報の掲載

③ボラレン主催の自然観察会と行事案内のチラシを作成し、札幌エルプラザ、北海道環境財団、札幌区民センター、江別市公民館、芸術の森、野幌森林公園内の自然ふれあい交流館、森林の家などに配布する。また、春先の観察会において一般参加者へ配布する。

(10) ボラレン活動の全道的な活性化を目指す試み（平成24年度も継続）

1. 育成研修会受講者でボラレンに加入していない人への参加の働きかけを行ないます。

2. 支部立ち上げの機運が出てきた時には、積極的に支援します。

3. 支部を代表して総会に出席する1名については、旅費を助成します。

(1) 最も経済的な交通機関を利用することとします。

(2) 上限を、1万円とします。

(3) 申込先は、事務局とします。

※3に記す事項は、ボラレンの会計規模を考慮し、各年度の提案事項とします。

実施期間は、平成24年4月14日～平成25年4月13日までとします。

(11) 下見会の研修の場としての充実を図るために「話題提供者」を設定します。

本年度は自然ふれあい交流館との共催の観察会だけの設定にしました。

- 4月25日(水) 道場 優さん 「鳥」
- 5月21日(土) 五十嵐一夫さん 「花の形が決まるしくみ」
- 6月2日(土) 室野文男さん 「シダ植物」
- 8月8日(水) 田村允郁さん 「木の指標」
- 9月8日(土) 土屋忠司さん 「未定」
- 10月10日(水) 宮本健市さん 「昆虫」
- 11月10日(土) 小林英世さん 「ゼウスの卵を探そう」
- 2月16日(土) 春日順雄さん 「未定」
- 3月23日(土) 佐藤清一さん 「未定」

2. 平成24年度 予算案

平成24年度予算(案)

単位:円

項目	予算額	前年度予算額	摘要
前年度繰越金	268,459	288,789	
年会費	450,000	405,000	会員150×3000円
雑収入	41,541	46,211	保険料、協力者礼金
合計	760,000	740,000	

支出の部

単位:円

項目	予算額	前年度予算額	摘要
総務部費	200,000	180,000	総会費、役員会会議費、振替手数料、腕章など備品
事務局費	100,000	100,000	通信費、事務用品費
研修部費	130,000	130,000	研修会講師謝礼金、育成研修会経費
活動費	150,000	150,000	地方支部活動費、研修会等助成
広報部費	150,000	130,000	会報えぞまつ制作費、郵送費、取材経費
特別会計	30,000	30,000	特別積立金へ繰り入れ
合計	760,000	740,000	

北海道ボランティア・レンジャー協議会 平成24年度 観察会・研修会事業計画

月	行事名	実施月日	下見 話題提供	集合・解散場所	主・共催	備考	担当
4	春の花を見つけよう(野幌) エゾユズリハ～志文別～大沢	26日(木) 10:00～12:30	25日(水) 道場優	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	内山、菅
5	セイヨウオオマルハナバチ防除(野幌)	7日(月) 10:00～12:30	担当者のみ	開拓の村入口 エゾムラサキツツジ	主催	会員限定	室野・牧
	春のありがとう観察会(野幌) A:(四季美～カツラ)、B:(ふれあい～瑞穂の池)	13日(日) 10:00～14:30	12日(土) 五十嵐一夫	交流館集合・解散	共催	昼食・ごみ袋・ 軍手持参	小林・室野
	恵庭公園観察会	20日(日) 10:00～12:00	19日(土)	恵庭公園中央駐車場 集合・解散	主催	昼食持参自由	小林・橋場
	三角山登山観察会	27日(日) 10:00～14:00	26日(土)	緑花会館前登山口 集合・解散	主催	昼食・飲料持参	菅・大藤
6	森の新緑観察会(野幌) エゾユズリハ～志文別～大沢	3日(日) 10:00～12:30	2日(土) 室野文男	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	春日・伊藤
	北広島レクの森観察会	17日(日) 10:00～12:30	16日(土) フラワーzon	レクの森入口駐車場 集合・解散	主催	昼食持参自由	佐藤・我妻
7	北海道大学雨龍研究林研修会	6日(金) ～7日(土)	集合時間 13:00	模加内町政和第1 せいわ温泉「ウオン ト」	主催		春日・小林
	蔵川研修会(ネイチャー研究会inむかわ)	20日(金) ～21日(土)	集合時間 13:00	むかわ町道の駅 四季館	主催		内山・熊野
	特定外来生物オオハンゴンソウの防除(野幌)	22日(日) 10:00～12:30	担当者のみ	交流館集合・解散	主催	軍手・鎌 昼 食持参自由	室野・佐藤 大表
8	夏の森の観察会(野幌) 瑞穂線～瑞穂の池～記念塔～開拓の沢	9日(木) 10:15～13:30	8日(水) 田村允郁	開拓の村集合・解散 記念塔(昼食)	共催	昼食持参	熊野・菅 田村
	北海道ボランティア・レンジャー 育成研修会	24日(金) ～26日(日)		野幌森林公園 自然ふれあい交流館	共催	募集開始6月1 日～7月30日	研修部
9	秋の花でにぎわう森を歩こう(野幌) エゾユズリハ～志文別～四季美～カツラ	9日(日) 10:00～14:30	8日(土) 土屋忠司	交流館集合・解散	共催	昼食持参	室野・土屋
	日帰りキノコ研修会	19日(水) 10:00～14:00		道民の森・月形町入 口(陶芸館前駐車場)	主催		内山・松原
10	芸術の森周辺観察会	7日(日) 10:00～12:30	6日(土)	芸術の森入口バス停 留所前 集合	主催	昼食持参自由	
	秋の森の匂いをかごう(野幌) 開拓の沢～ふれあい～交流館～瑞穂の池	11日(木) 10:15～14:30	10日(水) 宮本健市	開拓の村・集合解散 (交流館昼食)	共催	昼食持参	
11	晩秋の森観察会志文別コース(野幌) エゾユ ズリ～志文別～森林の家(昼食)～中央線	3日(土) 10:00～14:30	2日(金)	交流館集合・解散	主催	昼食持参	
	秋のありがとう観察会(野幌) A:大沢・カツラ B:ふれあい・瑞穂連絡	11日(日) 10:00～12:30	10日(土) 小林秀世	交流館集合・解散	共催	ごみ袋・軍手・ 昼食持参自由	
	西岡水源地自然観察会	23日(金) 10:00～12:30	22日(木)	西岡公園管理事務所 前 集合・解散	主催		
1	円山登山観察会	13日(日) 10:00～12:30	12日(土)	円山登山口前 集合・解散	主催		
2	冬の森の観察会(野幌) 大沢～志文別～エゾユズリハ	17日(日) 10:00～12:30	16日(土) 春日順雄	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	
3	森の中で春をさがそう(野幌) 大沢～志文別～エゾユズリハ	24日(日) 10:00～12:30	23日(土) 佐藤清一	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	

※ アポイ・様似研修会は本年度は中止、前半の事業担当者が決まりました。

※集合場所 開拓の村は道立野幌森林公園 北海道開拓の村 (本年度から駐車場が無料になりました)

※集合場所 交流館は道立野幌森林公園大沢口 北海道自然ふれあい交流館

ボラレンのホームページアドレス <http://hokkaidou.me/volaren/>

メーリングリストのアドレスはhbr-ml@fseml.com

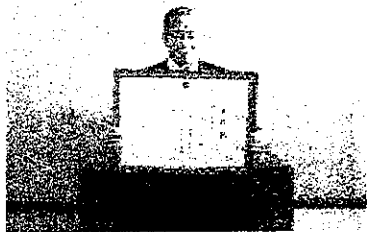
メールアドレスをお持ちの方でメーリングリストに登録されていない方は事務局へ。

事務局 室野文男

mail:fum-murono@hokkaidou.me

永年にわたる森林整備などの功績が認められて～佐野亮二さんが北海道産業貢献賞受賞報告

このほど、町内在住の佐野亮二さんが平成23年度北海道産業貢献賞を受賞し、12月27日に遠軽町役場を訪れ受賞の報告をしました。



佐野さんは、永年にわたり森林整備をはじめ、後継者育成などに貢献したことが評価され今回の受賞となりました。

佐野さんは、「この賞は、多くの仲間のおかげで受賞できたと思っています。これからも森林整備を通じて、環境問題などを多くの人に伝えていきたいです。」と受賞の感想と今後の抱

負を語っていました。

広井澄夫副町長は、「昨年の全国林業経営推奨行事「林野長官賞」に続き、北海道産業貢献賞の受賞おめでとうございます。これまでの森林づくりのご苦労が認められた証だと思えます。」とお祝いの言葉を掛けていました。

入賞決定！

遠軽町の佐野指導林家

平成23年度 第49回農林水産祭 全国林業経営推奨行事で「林野長官賞」に決定

■全国林業経営推奨行事とは？

(社)全国林業改良普及協会並びに大日本山林会が主催し、森林の適正な育成・管理及び林業技術・経営の改善に努め、森林の有する多面的機能の発揮と、林業の持続的で健全な発展に寄与する森林の管理経営体を表彰します。

この度、佐野指導林家の永年の山づくりと、精力的な地域活動等が認められ「林野長官賞」に入賞しました。

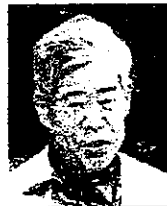
■佐野指導林家の山づくりと活動

山づくり

人工林は、地位に見合った生産目標を定め適期に施業を実施している他、林業機械の開発や循環型線形の作業路を開設するなど低コストな施業を実施しています。また、平成18年に遠軽地区の森林所有者や町民等で結成された森林ボランティア「オホーツク森林レスキュー」では、指導者として会員への林業技術の指導を行っています。

地域活動

遠軽町の「林業林産業活性化協議会」の「遠軽町林業博士」として、地域の児童や一般住民などを対象に自然環境を解説するガイド等を行っています。



佐野亮二指導林家

北海道大学雨龍研究林研修計画 (案)

I、日時 平成24年7月6・7日(金・土)

II、会場 北海道大学雨龍研究林

〒074-0741

雨竜郡幌加内町字母子里

電話 0165-38-2125

ファックス 0165-38-2410

III、研修の目的 雨龍研究林の理解を深める

I、雨龍研究林の歴史と自然について 気象・地質・地形・植物・動物など

2、フィールドに出て雨龍研究林の理解を深める

IV、日程

1、 集合場所

せいわ温泉「ルオント」 雨竜郡幌加内町字政和第一

電話 0165-37-2070

ファックス

0165-37-2072

※一日目の研修場所

せいわ温泉施設2階

2、 一日目日程(7月6日)

(1) 13:00

集合

(2) 13:15~15:00

研修

進行役: 研修部

「雨龍研究林について」

守田先生

(3) 15:00~17:00

自然散策・入浴

(4) 17:00~18:00

夕食・懇親会準備

担当: 研修部

(5) 18:00~

夕食・懇親会

3、二日目日程

(1) 8:10

雨龍研究林に向け出発

(2) 8:50

雨龍研究林着

(3) 9:00~11:30

フィールド研修

講師: 守田先生

(4) 11:45

雨龍研究林澗

(5) 12:45

せいわ温泉着

(6) 12:50

解散式

進行役: 研修部

(7) 以後は、各自で入浴や昼食をとり、帰途につく

V、募集人数 37名

※宿泊はログキャビン。全部で9棟あり。収用人数 37名

VI、費用 夕食・懇親会・朝食・ログハウス代 5000円

(多少、変更の可能性あり)

VII、持ち物 布団はあります。その他、各自宿泊に必要なものを持参

VIII、交通機関 深川、名寄間のバスはあるが、当てにしない方がいい。自家用車相乗り。

鵠川研修会 (案)

今年度は“ネイチャー研究会 in むかわ”の毎年の行事「人工干潟の除草作業」に参加させていただき、環境を守る活動を体験してみようという企画です。

「人工干潟を守ろう」

人工干潟内に植物が繁茂し「ゴカイ」が棲める環境が悪化しています。皆様の協力をお願いして、植物の刈り取り作業を行っています。一人でも多くの方の手が必要ですので、ご協力をお願いいたします。

日時 2012年7月21日(土) 午前9時~12時 小雨決行

集合場所 人工干潟ゲート前(中田牧場さん海側)

持ち物 長靴(あれば胴付)、軍手(ゴム手)、鎌、汚れてもよい服装

主催 ネイチャー研究会 in むかわ、協力 むかわ教育委員会

朝9時からの作業ですし、せっかく鵠川河口まで行くのであればシギ、チドリを観察や海浜植物の観察など行いたいです。会としての予定は以下の通りです。

日時 2012年7月20日(金) 13時 道の駅「四季の館」集合
鵠川河口で自然観察会を行う

7月21日(土) 9時 人工干潟の除草
12時 解散

宿泊 むかわ交流館(むかわ町美幸町4丁目) 電話ありません。

参加費 宿泊の方(2500円) 懇親会のみの方(1500円)

詳細は後日ハガキでお知らせいたします。

塩谷丸山自然観察会に参加して

小樽市 小林 真理子

3月24日土曜日 曇り時々雪 総人数26名でからまつ公園に集合して何台かの車で廃棄物処理場の上の登山口から登り始めました。スタート時点では肌寒かったのですが、少し登り始めると汗が出だして上着を脱ぐ人達もいました。

途中、ノウサギ等の野生動物の足跡があり見分け方を教えて頂きました。今年は雪が多く低い木々の冬芽がまだあまり膨らんでいませんでしたが、ウルトラマンのシュワッチの形に似たオオカメノキの冬芽が可愛らしく膨らんでいるを見つけました。

登りがだんだんきつくなり雪が深くなって来て、先頭のラッセルの方が時々交代して、約2時間で塩谷丸山の頂上に着きました。頂上にある祠の屋根が雪の中から見えていたので、「登山の安全と今年も美味しい山菜が沢山採れます様に！」と祈願したら周りにいた方々に笑われてしまいました。

風が出て来た為、早々に登って来た所とは反対の方向に下りて昼食を取る事になりました。昼食を食べて下山の途中で北原先生から樹皮を良く見て見分ける木の特徴を聞き、この山ではミズナラ、カバ類、イタヤ、シナノキの4種類が多いと教わりました。

帰り道の日当たりの良い斜面には、頂いたプリントに書いてある「根開き」と言う、木の周りの雪が丸くくり抜いた様に溶けている状態が沢山見られ春が近づいて来ている事を感じました。

冬の山歩きは雪の上の道なき道を歩く為、この観察会の前に下見に来て要所要所にピンクの道標を付けて下さったボラレンの方々のご苦勞を有難く感じました。

この観察会に参加して雪山の銀世界の自然に触れながら色々と教えて頂き、楽しく学ぶ事が出来ました。今年で北原先生が支部長を降りられたとの事、長い間本当にご苦勞様でした。

新しく支部長になられた北島先生より早々と2012年度の子定表を頂きましたので今年も沢山参加させて頂きたいと思っています。

春の森の息吹から、生の充実感を得て ——「森の新緑観察会」に参加して——

札幌市 堺 典子

森は、生命を優しく包み、癒し、躍動させ、私たちに勇気をもって生きていく力を与えてくれます。雑多な日常を過ごす中で疲れて、くたびれてしまう心を激励してくれる森林、歩きです。

観察会には『毎日のように、森を歩き、樹木、草花、野鳥等の自然観察を、エンジョイしているYさん』に、声を掛けていただき、参加する機会をもちました。毎日『感動!! 感激!! 感謝!! 』しています。

自然観察も一人では、限られた知識ですが、ボランティア・レンジャーの方々の案内で、覚えられぬほどの学習をし、興味は尽きることはありません。森林の環境を守ることの重要性、その保全等から「道端に咲く小さな花の名前」「習性」「食べられるか否か」「薬草か毒草か」「雌雄の判断」の仕方まで知ることができます。今まで「クマザサ」と思っていたけど「クマイザサ」が正しいとのこと、「オオアマドコロ」と「ホウチャクソウ」との違い等。解説してくれた皆さんは、個性的でさまざまな角度から話されています。本当に楽しく、ワクワク、ドキドキします。

ある解説員は、植物の名前の由来にはじまり、食べられるか否かなど身近な日常生活にかかわることにもふれられていました。やはり食べられない毒草でも、少量であれば薬になるようです。また、他のレンジャーは、植物の説明にも科学の歴史からだけでなく、古代の詩歌「万葉集」にはじまり、日本の歴史から広く世界の歴史にまでふれて話されていました。小道具類、花や種子の標本なども用意されていました。

一回の観察会を通して、植物などの知識をたくさん吸収することになりますが、すぐに忘れてしまいます。残念ですが、それは人間らしくもあり、面白いところかもしれません。

写真や手紙等で仲良しになり、またの参加を約束しあいます。笑顔でコミュニケーションを続けていく場となっています。充実の時間を過ごせる喜びに満ちた観察会は、気楽に参加できます。「自然ふれあい交流館」の職員の方もサポートしてくれます。五感を研ぎ澄まし、生命感あふれる植物のエネルギーを吸収し、明日からまたリフレッシュして頑張ろう!! と誓ったりしています。

森の観察会は面白い!! 「ホウ」の説明を受けて「へー」と、感心すると、メンバーが「ホウーですよ!」と 皆で大笑いの森、歩きでした。

『春のありがとう観察会』（24.5.13）に参加して

西区 鎌田 洋

野幌の自然公園には野草に詳しい友人の案内で、日頃の運動不足の解消もかねて何度か訪れ、その都度、心身ともにリフレッシュさせてもらっていました。

何度か散策して自然に触れるにつれ、草木や野鳥をもっと知りたいと考えていた矢先、「自然ふれあい交流館」で、「北海道ボランティア・レンジャー協議会」の存在を知り、初めて「春のありがとう観察会」に参加させていただきました。

初心者私の私にとって分らないことばかりなので、事前に「北海道の花」・「北海道の樹」（北海道大学図書刊行会）に目を通してはみました。しかし、フィールドに出ると、観るもの聞くもの、みな新しいことばかり。右から聞いて左に抜けていきました。でも何度も繰り返し教わり、愛着をもって観察し努力すれば、観察会に参加されいろいろ知っていた皆さんに、いづれ近づけるのではないかと思います。

それにつけても、解説していただいた自然観察員のかたの、知識の引き出しの多さに感心させられました。本当に自然を愛し、大切にされているのがよく分かりました。

私たちのグループは、Aコースをゆっくりと廻りましたが、冒頭に自然観察員から観察時のマナーの話がありました。いままでは気もとめず観察していたことが、きちんとした自然保護の意識を持って自然を守っていかなければと改めて思いました。解説に当たっては、手造りの図解を用いて、丁寧に分かりやすく説明していただきとてもよかったです。寄生木の成長過程を輪切りにした標本で、他の樹木を侵食している様子は一目瞭然でした。また、啄木鳥の営巣にアライグマが入り込んだ写真や、離農後の畑の跡を草木が枯れて、雪がうっすらと積もったときに撮影すると、くっきりとその痕跡が現われていた写真などを興味深く見せていただき、とても参考になり、感謝しています。

この観察会の後にも、「北海道ボランティア・レンジャー協議会」主催の「三角山の観察会」に出席させていただき、いろいろなことを教えていただきました。あらたな発見もたくさんありました。

この場をお借りしてお礼申し上げます。機会をとらえて観察会には、また参加させて頂きたいと思います。

ありがとうございました。

自然のなかに浸る貴重な時間

—— 恵庭公園自然観察会、三角山登山観察会に参加して——

札幌市 藤森 由美

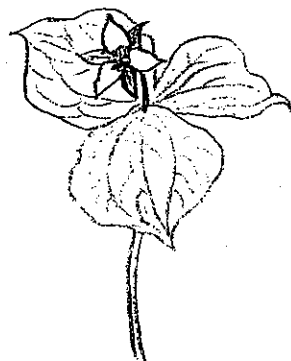
札幌の区民センターに置かれた一枚のチラシ「2012年度 自然観察会&行事の御案内」が、楽しい出会いとなりました。

ひかれたのが<三角山登山観察会>、登山に縁のない者が登れるのか、迷惑をかけるのでは、思い迷いながめていました。

まずは、出来るかどうか尋ねてみようと5月20日の<恵庭公園の観察会>に初参加しました。土地不案内のため（事前に道路地図で確認したのが）集合場所に無事着き、会員の方に会えるのか不安を抱き向いました。自然に帰りつつある牧場の跡地は、木漏れ日差す散策道、澄んだ小川、湿地、雑木林と、すばらしい所でした。初めて目にしたミドリニリンソウ、ホソバナアマナ、4枚がくのシロバナエンレイソウ。沢山の野の花、樹々、それぞれの名、生態系の説明を受けながら2時間は、すぐに過ぎました。

5月27日の<三角山登山観察会>も初心者でも大丈夫と、会員の皆さんに励まされて、無事登ることが出来ました。ここでも沢山の植物に会いました。親切に一つ一つ教えていただく花や樹の名前や生態系、教えていただくかたわら忘れてしまう困り者ですが――。教えていただいたことを少しずつでも覚える楽しさ、花を見る楽しみ、自然の中に浸ることが出来る大切な時間、を与えていただきありがとうございます。

野幌の森林公園での観察にも是非参加させていただきたいと思っています。



野鳥のラブソング聴き 原発再稼働の”政治判断”を怒る

札幌市 浅見 文貴

野生の森の人気もの”シマフクロウ”ならぬ「エゾフクロウ」を書くには、まず訂正記事から文章を起こさなければならない。長いこと、気にかけていたことだからだ。それはかなり昔のことである。この「エゾマツ」に私は、シマフクロウが冬のあなたを歓迎します、と紹介した。しかし、これが真っ赤なウソであることが判った。いつかお詫びしなければならない、と心に決めていた。

その機会がようやくやってきた。6月3日、野幌の森をたずねた時だ。降りそそぐ、風も光る6月の陽光が野幌の林道に初夏の訪れを告げていた。と、そのおだやかな、そしてのどかな風情を突き破るかのような光景が歩く私の目に飛び込んできた。細い林道いっぱい人が群れている。そしておびたしい、カメラの放列が大自然の森、目のさめるような鮮やかな木々の緑に向けられている。エゾフクロウの子連れショットをうかがうバード・

ウオッチャーたちの群れである。

「野鳥のラブソングを聞こう」というボラレン（北海道ボラレンティア・レンジャー協議会＝春日順雄会長）と、一般社団法人・自然交流館が公募したイベントに参加して、ハナから幸運に恵まれた。

と、同時にシマフクロウの訂正を思いたった次第である。

最近、いけつけの居酒屋の飲み仲間たちから説明が長い、という老化現象を自覚し、反省しつつ筆を前に進めよう。

「私が知る限り、野幌にシマフクロウが飛来してきた記録はない。長年、野鳥を求めて北海道を歩いたが、仲間たちもシマフクロウの影すら野幌で視ていない。大沢の入口付近でエゾフクロウが来訪客に愛想をふりまく話はよく聞きますがね」。

海鳥観察で小樽の祝津に向いた折、専門知識の豊富な愛好家から聞かされて間違いを知った。シマフクロウは北海道は道東に生息し、水辺に命をつなぎ、原生林にくらす。アイヌ語では、村を守る神“コタンカムイ”を呼ばれ、部落の守護神。ただし、調査によると、村の神はいちじるしく激減し、住み家の河川で魚をみつけると、音もなく舞い降りて鋭いツメ足でゲットする肉食じゅう特有の生態を観察する機会がめっきり、少なくなっているようだ。しづれにしても、日本最大のフクロ



暫定基準で再稼働の原発がこの平和な2匹子連れエゾフクロウとそれを撮影するバード・ウオッチャーも不安に＝6月3日野幌の森で。

ウであることは疑う余地がない。さて、激減で思い出したことがある。本道や秋田、岩手に分布する「ザリガニ」、またの名をさるがにと呼ぶ。昭和天皇が国立公園支笏湖で行われた植樹祭にご臨席され、宿泊先の王子クラブ（支笏湖湖畔に所在し、苫小牧王子製紙所有）に一夜の夢を結んだ折、そのザリガニの刺し身をご所望され、地元の衛生管理者たちが上を下への大騒ぎに見舞われ、報道陣の末席を汚すことになった新米記者である私も閣下のご健康を気遣うニガイ経験に思いをはせた。

よくアメリカザリガニと間違われるが、日本に昔からいた本種は、体がやや太め、全体に寸づまりの感じを受ける（山と溪谷社刊の淡水魚）が、昭和天皇は千歳の湧水河川、ナイベツ川産のザリガニを召しあがられ、付き人が「食あたりのご心配無用」と話されと、「あっ、そう」と言われ、すこぶるご機嫌だった、という。

シマフクロウといえ、ザリガニも人間がタレ流す環境汚染という名の自然破壊の理不尽に生きる領域を狭められつつある現実が哀しい。

だからこそ、自然保護を活動の原点に据えるボラレンの存立意義があるのであって、私もようやくその一員に加えて頂く宿願かない柄にもなく先輩諸氏に教えを乞いながら、自然を守る道歩く。

そこで、世の中を誤導する傾向、報道の多い大新聞・TV、少し気になった6月10日、朝日新聞の朝刊、3面の記事を引用しよう。無罪男・小沢一郎元代表のコメントである。「(前段省略) 文明のもたらした結果も国民の生活のためでなければ意味がない」。原発放射能などについてのメッセージであり、ご承知のように大マスコミや検察による空前絶後のバッシングにさらされながら、常に政界の中枢にいて、トツ弁の中に発する言葉には説得力がある。あのフクシマ原発の大災害は、科学文明の敗北に加え、自然人間の過失が生み落とした“世紀の人災”であった。

無罪男のメッセージは、ズバリそれを直撃、大飯原発の再稼働に待ったをかけた。

野幌の大自然を守ることと、国論を二分する現政権が自然（国民）に背を向ける姿。当然、泊稼働も視野。どうも気が晴れない。偶然のエゾフクロウとのデートの日野幌は雲ひとつない日本晴れだったのに。(24・6・11)

ヒグマの生態

北海道ボランティア レンジャー協議会 宮本健市

最近ヒグマに関するニュースがマス メディアを賑わすことが多い、ヒグマにしてみれば非常に迷惑な話なのかもしれない。ちょっと人里に近づいただけで銃砲で撃たれて、すこし気の毒な気もしないではない。

人里に出てくるのには人間の側にも責任があるのではないだろうか？

私は、自然大好き人間で、よく山や森に出かけることが多い。山や森には楽しいことがいっぱいある反面、危険なこともいっぱいあり（自然が豊かなところは危険も豊か）リスクをとまなうことを常に心がけて出かけることにしている。その中でもヒグマは筆頭にあげられるでしょう。私も、いままでに片手では数えられないほど出遭っているが（究極は冬眠穴にも入ったことがある。）事故にあっていないのが幸いである。つまりヒグマの好きな場所を私も好きということなのだろう。

そこでクマに出遭って困らないために、今まで経験したことや学んだことを紹介することにします。

* 冬眠からの目覚め

- ・ 雌と仔熊は、4月下旬から5月上旬（仔熊が餌を獲って歩けるまで冬眠穴の近くで過ごす）雄より穴に入る時期は早い
- ・ 単独の雄は3月中旬から冬眠穴を出て行動を開始する。（2月中旬に締めり雪の上で足跡を見たこともある。）穴に入るのも雌より遅い。

* 行動範囲

- ・ 雌は数Kmから40Km（仔熊を連れての移動は大変）
- ・ 雄は数百Kmと広くしばしば雌の行動範囲と重なる。（雌が2年にわたり子育てをし交尾をすることが出来ないため。多くの雌と交尾をする。）
- ・ 特に縄張りをもつことはない。
- ・ 海岸線から亜高山帯までと生息範囲がひろい。

* 食物

- ・ 4月～5月
ザゼンソウ ミズバショウ フキノトウ アキタブキ イラクサ ギョウジャニンニク オオバセンキ
ユウ ウド 単子葉草本
- ・ 6月～8月
ザゼンソウ アキタブキ エゾニュウ オオハナウド ハクサンボウフウ マルバトウキ オオイタドリ 蟻 スズメバチ
- ・ 9月～11月
サルナシ マタタビ ヤマブドウ ドングリ コケモモ シウリザクラ ウワミズザクラ ミズキ
オニグルミ 蟻 スズメバチ 鮭 鹿

* 食害

- ・ トウモロコシ イネ 小麦 メロン スイカ ビート
（食べ時を心得ていて収穫直前のものを食べる。トウモロコシなどは、上手に皮を剥いて芯を残して食べ、イネは歯ですぐりとる。）

* 消化器官

- ・ ネコ目クマ科に属する動物で、もともと動物性の食物を食べていたため消化吸収するための腸が短く、奥歯も植物をすりつぶす能力が劣るため、食べた食物の大半が未消化のまま糞として排出される。中には歯のあとがついていない果実が糞の中にみられることもある（十分な栄養を確保するには、ひたすら食べるのみである。）
- ・ 糞の重さは500gから1kgくらいである。
- ・ サルナシを食べた糞などは良い香りがする。

* 食べ跡

- ・ アキタブキなどの食べ跡は切り口が汚く茎の繊維が残り中間よりやや下を食べる。アキタブキなどの食

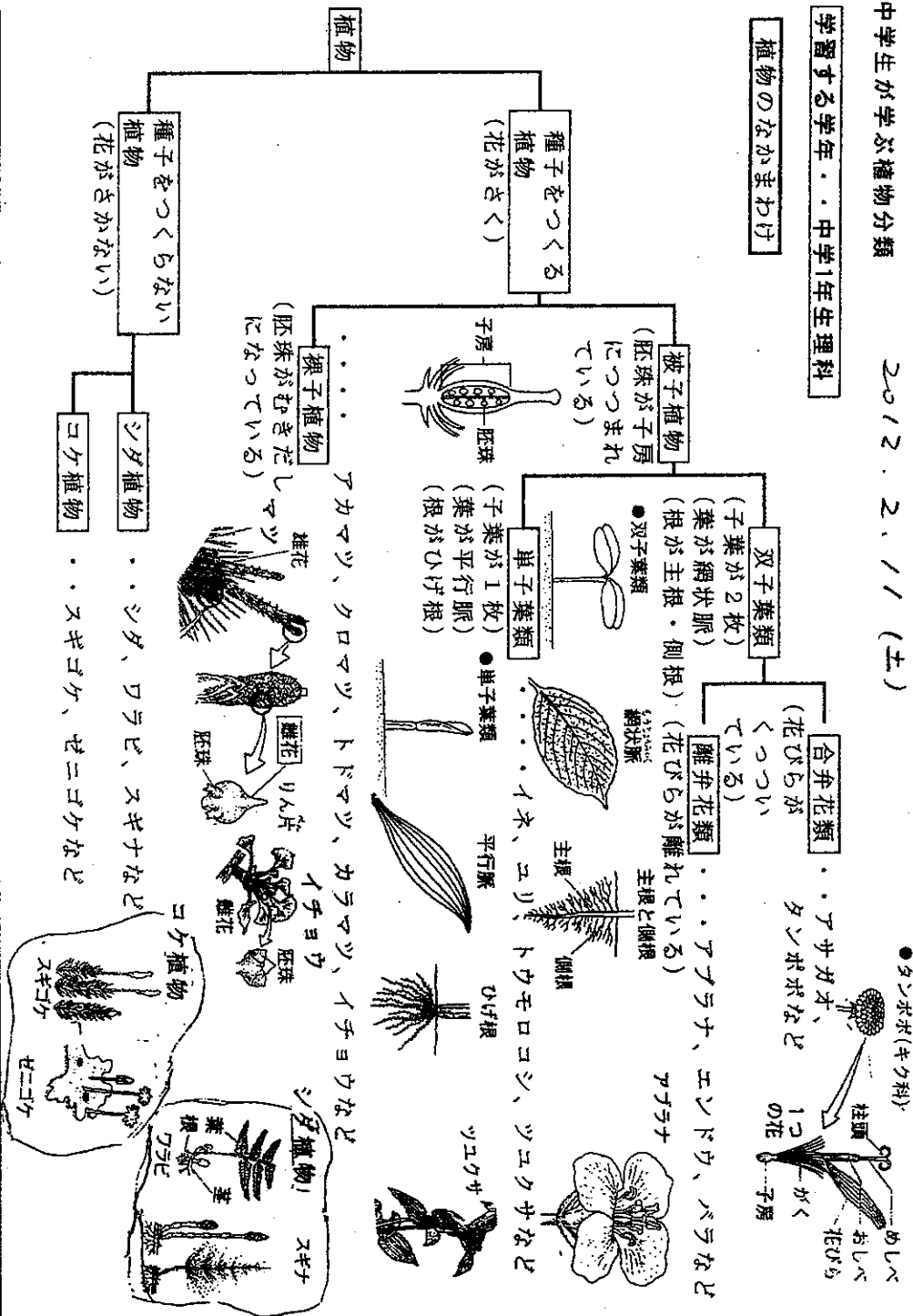
- ベ跡では葉の鮮度で新しいか古いかを判断する。
- ・ エゾシカの場合は切り口が鋭く植物の根元まで食べる。
- * 食の性質
 - ・ 食べ物に対する執着が非常につよい。
 - ・ 一度手に入れた食べ物を守る（土中または枯草などで隠して土まんじゅうを作る）
 - ・ 食べ物を隠した場所に何回も現われて餌を食べる。
- * 体型
 - ・ 雄は肩や前足の筋肉が盛り上がる。（体重180kgから3~400kg）
 - ・ 雌は体重80kgから150kg
 - ・ 雄雌ともに10歳くらいまで成長する。
 - ・ 北方にいくほど体型は大きくなる傾向にある。（アラスカ沿岸部の雄は体重が800kgに達するものもいる。「ベルグマンの法則」）
 - ・ 前足の力が非常に強くパンチ力は1.5t
 - ・ 走るスピードは60km/hくらいである。
 - ・ 視力は人間より劣る
 - ・ 聴覚、臭覚は（人間の数万倍）と非常にすぐれている。
 - ・ 足跡の幅19cm以上は体重400kg以上、14cmで200kg
- * 冬眠
 - ・ 冬眠の穴は高地には少なく、山腹や山麓に多く標高100~900mで多くは200~300mである。入り口は東向き44%、北向き27%、南向き8%、西向き8%、平地13%で斜面20~30度である。
 - ・ 雌は12月中旬ころから冬眠に入る。雄は雌より穴に入るのが遅い
 - ・ 山の斜面や大木の根の下などに穴を掘り冬眠穴とする。（穴の中は笹の葉やトドマツの葉などを敷き詰め融雪時期に天井からの水滴で底にたまって体が濡れないようにしている。）
 - ・ 穴の大きさは幅と高さは1m前後で奥行きは2~3mくらいである。
 - ・ 冬眠中は覚醒状態にある。
 - ・ 雪をなめるくらいで食べ物は食べない。（冬眠に入る前に笹の枯れ葉などを食べて肛門の近くに栓をする。）
 - ・ 尿も排泄せず膀胱から再度水分を吸収する。
 - ・ 食べ物を食べなくても良いように体を変化させる。冬眠から覚めてもしばらくの間はもとの体に戻らないため少しづつ食べ物を食べて徐々に体をならしていく。（食べものが大腸にたまると肛門の栓はいきよよく糞といっしょに飛ぶ。）
 - ・ 体毛はちぢれていて冬眠中の保温に役立つ。
- * 生殖と育児
 - ・ 生殖行動は3歳くらいから可能になる。
 - ・ 6月ころに交尾するが受精卵は着床せずに子宮の中で浮遊卵の状態で存在する。（着床遅延）秋の食べ物の出来不出来によって食べ物が少なく子供を育てることが困難と判断した場合は受精卵を捨てる。冬眠に入ってから着床する。
 - ・ 妊娠期間は2ヶ月
 - ・ 生まれたときの子熊の体重は400gと非常に小さく出産のときの体力の消費を少なくしている。（受精卵が着床して約2ヶ月間と短い。）
 - ・ 穴の中で約10倍（4~5kg）に成長する。（非常に栄養価の高い母乳で育てる。）
 - ・ 1年で40~50kgに成長する。
 - ・ 平均出産間隔は2~3年である。
 - ・ 平均出産頭数は2頭である。
 - ・ その年に生まれた仔熊は母熊といっしょに冬眠する。（1冬だけ）
 - ・ 平均育児期間は1年4ヶ月~2年4ヶ月と考えられる。
 - ・ 親元を離れた雄は広範囲に分散していく。
 - ・ 親元を離れた雌は母熊の行動範囲近くで生活する。

- * 攻撃
 - ・ 威嚇の行動は突進してきて急に止まり前足で地面を激しく叩く。(この時点では、まだ攻撃することは少ないので落ち着いた行動が望まれる。)
 - ・ 春先の熊は体力がなく咬みつき、秋の熊は体力があり前脚のパンチ力が強い
 - ・ 食物に執着したときの行動はノラリクラリとどんどん近づいてくる。(極めて危険な状態である。)
- * 攻撃回避
 - ・ 山に入る前に熊の出没情報を入手する。(役場、警察、営林署、地元の猟友会)
 - ・ 朝夕の薄暗い時間帯の行動は避ける。
 - ・ 音を出しながら歩く(熊鈴などをつける。)静かに行動したい人は道の曲がり角手前で声を出すか手をたたいてパツパツと出遭いを防ぐ。
 - ・ 音を出してすぐに山に入らない。(熊に逃げる余裕を与える。)
 - ・ 細い小枝で立ち木を縦に叩くや空きペットボトルを鳴らすなども有効である。
 - ・ 熊スプレーを持ち歩く。(5m~7mくらいが有効とされる。落ち着いて引き付けてから噴射する。)
 - ・ 鉦はいざというとき闘う有効な武器となる。(切るのではなく鉦の背で顔面を叩くほうが効果がある。)
 - ・ 子熊に出会ったら、すぐその場を離れる。(絶対近くに親がいる。仔熊を守るときの母熊は非常に恐ろしい。)
 - ・ 糞や食べ跡または足跡を見たら、すぐその場を離れる。
 - ・ 遠くに熊を見つけたら状況を判断し熊がこちらに気付いていなければ、その場を静かに離れる。
 - ・ 熊がこちらに気付いたら熊の行動に注意し離れて行くようなら、その場を静かに離れる。
 - ・ 近づいてきたら慌てずに熊と対峙し、両手を上げて石や切り株などの上に上がり自分を大きく見せる。(多人数の場合は手をつなぎ横一列に並ぶ。)
 - ・ 死んだふりをして助かった者はいない。(アイヌの言い伝えにも出てこない。)
 - ・ 持ち物を与えることは悪い熊を作ってしまうのでよくない。
- * 注意
 - ・ 単独行動は絶対しない。
 - ・ 風の強い日や川の水音が激しい場所では行動に注意(熊も音や臭いを認識できず人間の発見ができない。)
 - ・ 遭遇してしまったら大声を出す、走って逃げる、石をなげるなどは自殺行為である。
 - ・ 食べ物の残りや飲料物のペットボトルや空き缶は必ず持ち帰る。(土中に埋めても効果なし)
- * 嫌いな物
 - ・ 蛇 人間 犬の鳴き声 ペットボトルの音
- * その他
 - ・ 日光浴が好きで暗い森ではあまり行動しない。
 - ・ 森の中を歩くとき足音をたてないため知らない間に近づいていることもある。
 - ・ 平和的で臆病な動物である。
 - ・ 北海道に2000から3000頭くらい生息すると考えられる。(大型動物は1000頭をきると保護の必要がある。)
 - ・ アイヌ語でキムンカムイ(山の神)

最後に人間が自然のルールをしっかりと守り危険な熊をつくらないことが一番大切である。私たち山や森で活動するボランティア レンジャーも熊のことをよく理解して事故がなく楽しい活動をしたいと思う。

学習する学年・中学1年生理科

植物のなかまわけ



中学1年生が学習する理科の生物内容 (上記以外)

○生物の観察・・・身の回りの植物

・水中の小さな生物

○植物の体のつくりと働き・・・花のつくりと働き

・葉、茎、根のつくりと働き

中学2年生が学習する理科の生物内容

○生物と細胞

・植物細胞、動物細胞

○動物の体のつくり

と働き

・生命を維持する働き

・刺激と反応

○動物の仲間

・脊椎動物の仲間

・無脊椎動物の仲間

○生物の変換と進化

中学3年生が学習する理科の生物内容

○生物の成長と殖え

方

・細胞分裂と生物の成長

・生物の殖え方

○遺伝の規則性と遺伝子 (DNAを含む)

○生物と環境

・自然界のつり合い

・自然環境の調査と環境保全

○自然の恵みと災害

○自然環境の利用 (他

の分野と共通)

(参考資料 啓林館)

I. 野幌森林公園の鳥 (2011年4月24日の探鳥資料)

アオサギ トビ コゲラ アカゲラ オオアカゲラ ヤマゲラ クマゲラ ヒヨドリ
ヒレンジャク ヤブサメ ウグイス エナガ キクイタダキ ハシブトガラ シジュウ
カラ ヤマガラ アオジ ゴジュウカラ カワラヒワ ウソ ハシブトガラス

☆この時期の他の鳥(カイツブリ ハイタカ コガモ マガモ カルガモ
オナガガモ キンクロハジロ キジバト ツツドリ カヤクグリ ルリビタキ
クロツグミ ヒガラ ゴジュウカラ キバシリ マヒワ ニュウナイスズメ
カケス ハシボソガラス)

II. 「鳥」の“なぞ”をさぐる! 「クイズ 問題編」

1 鳥とは、どんな生き物?

Q 鳥にあって他の動物にない大きな特徴はなに?

Q 鳥と他の動物の違いはなに?

1 体 2 眼 3 口 4 耳 5 歯 6 骨 7 糞(ふん)と尿 8 卵 9 体温などの 違いは?



Q 鳥の耳は、どこにあるの?

Q 鳥の口が、嘴(くちばし)になっているのはどうして?

Q 鳥には、歯があるの?

Q 鳥には、なぜ歯がないの?

Q 鳥の骨は、どうなっているの?

Q 鳥の骨は、なぜ空洞になっているの?

Q 鳥の糞(ふん)は、なぜ白いの?

Q 鳥は、なぜ“さえずる”の?

Q 鳥は、なぜ雄の方が雌よりきれいなものが多いの?

Q 鳥は、なぜ卵を産むの?

Q 鳥の卵は、なぜまん丸じゃないの?

Q 水鳥は、なぜ冬に水の中に入っても足は凍らないの?

II. 「鳥」の“なぞ”をさぐる!

1 鳥とは、どんな生き物?(1)

Q 鳥にあって他の動物にない大きな特徴はなに?

(答え)・恒温動物(哺乳類も) ・体が羽毛のおおわれている ・空を飛ぶことができる
翼を持つ ・卵を産み、子を育てる(両生類も) ・視力と聴力が発達
・ガス交換率の高い呼吸器を持つ ・胸筋が非常に発達 ・腸が短い
・丈夫な嘴を持つ など

Q 鳥と他の動物の違いはなに?

1 体 2 眼 3 口 4 耳 5 歯 6 骨 7 糞(ふん)と尿 8 卵 9 体温などの 違いは?

(答え) 1 体: ・羽毛のおおわれている(飛ぶのに適している。保温力が高い)
・流線形(飛びやすい) など
2 眼: 視力が大変すぐれている[人間の5~8倍] ・視界が広い ・眼球が大きい
・色の感覚をとらえる(人間と同じ)
3 口: 嘴を持つ 4 耳: すぐれた聴力 5 歯: 軽量化をはかる!
6 骨: 軽量化をはかる! 7 糞(ふん)と尿: 飛ぶときは体外へ放出
8 卵: 卵生 9 体温: 外気温にかかわらず 体温が一定の保たれる

Q 鳥の耳は、どこにあるの?

(答え) 目の後ろ側に左右2個 ・音をよく聞く機能 ※耳の穴は羽毛のおおわれている
※飛び出した耳(人間など)は、飛ぶのに邪魔である

Q 鳥の口が、嘴(くちばし)になっているのはどうして?

(答え)・鳥には手がないので物をつかめない、いろいろと使う“嘴”が誕生した
・空を飛ぶために進化したと考えられている
※脚は、体を支えるためのもので、物をつかめない(ワシ・タカ類は例外)

Q 鳥には、歯があるの?

(答え) ない

Q 鳥には、なぜ歯がないの?

(答え)・飛ぶために頭部を軽くするため
※代わりに「砂肝」(砂のう・胃袋)を持つ
※「砂肝」に“砂”を入れて食物をすりつぶす ※何でも「ごっくん」と飲み込む

Q 鳥の骨は、どうなっているの?

(答え) 空洞(中空)になっている

Q 鳥の骨は、なぜ空洞になっているの?

(答え) 飛ぶために軽くしている ※細く丈夫!

II. 「鳥」の“なぜ”をさぐる!

1 鳥とは、どんな生き物? (2)

Q 鳥の糞(ふん)は、なぜ白いの?

(答え) 白いのは、人間では“おしっこ”。飛ぶのに体が重くならないように、“糞”と“おしっこ”体に貯めずに、体外に出す。
※体を軽くするために、ひんぱんに排泄する。
※特に飛び立つときは必ず排泄をする。

Q 鳥は、なぜ“さえずる”の?

(答え)・雄が雌を引きつける求愛行動
・雄が自分の“なわばり”の宣言をして、他の雄の立ち入りを禁止する行動

Q 鳥は、なぜ雄の方が雌よりきれいなものが多いの?

(答え)・美しい雄は雌によって配偶者として選ばれることが多い
・雌は抱卵・子育てのために、敵の危険を避けるには小型で地味な色のほうがいい

Q 鳥は、なぜ卵を産むの?

(答え)・飛ぶためには、胎生(子を腹の中に入れて産む)より、卵生の方が体重をできるだけ軽くできるから
・雌はできるだけ卵で早く出産をすませた方が、いろんな面で有利だから
※敵の危険を避けられるなど

Q 鳥の卵は、なぜまん丸じゃないの?

(答え)・卵が巣から転がり落ちにくくするため
・卵の一方の先が細長くなっていると、転がっても元のところにもどるから
※フクロウの卵はまん丸:巣が木の洞で、卵が転がらないから

Q 水鳥は、なぜ冬に水の中に入っても足は凍らないの?

(答え)・立っている片足の付け根のところ、足元からもどってきた“冷たい血液”が温められ体内(心臓)にもどり、かわりに体内の“温かい血液”が冷やされて足元に送られるようになっているので、鳥の足は温かく足元には“冷たい血液”が流れ、“しもやけ”ができない

(メモ)

ゴールのこと

苫小牧市 谷口勇五郎

もう10年も前のこと、6月初め、JR植苗駅から雑木林を通り湖畔へのルートの観察会の時でした。雑木林で、同僚のAさんが「これなんだい」と小枝に付いた、直形3cmぐらいの赤褐色をした、球形のものを持って来ました。これが始めて見た虫こぶでした。その後、オオヨモギ・ヤマブドウ・ハンゴンソウなど様々な色や形のものでした。ノブドウの果実は球形で、緑・白・青・紫色など、殆どが虫こぶだったとは全く驚きです。虫こぶはそれぞれ、タマバチ・タマバエ・アブラムシなどが寄生したためというのです。



ハクウンボク
エダサンゴフシ

ある日、Bさんから、虫こぶの資料を1枚もらいました。虫こぶにはカタカナの長い名前が付いていて、最後に〜フシとなります。こんな長い名前を覚えるのは無理と諦めました。でも、名前はともかく、実物を見れば、だいたい、何々にできた「虫こぶ」と、言えると思っていました。

今年の3月末、錦大沼公園の観察会するとき、木道わきの、7~8mもあるハクウンボクの木の小枝に、枯れ葉のような物が付いていました。握りこぶしぐらいの大きさで、褐色のものが5ヶぐらいありました。近づいて見ると、キクラゲのように、ぐにゃぐにゃなので、枯れ葉にしてはへんな感じでした。小枝を折って1個もらいました。帰宅して、調べると、びらびらして、いたるところに突起があり、しかもその先端に小さな穴があります。2枚重ねになっており、少し開くと(図)内側は淡色で、しかも白っぽい小さな塊りが幾つかあります。それはハクウンボクの生きている小枝から始まっているのです。

もしやと思い「虫こぶハンドブック」を開くと、ありました。ハクウンボクエダサンゴフシという虫こぶで、アブラムシが2年がかりで作り、8月頃、羽を持ったものが出て行ったというのです。この長い名前は、ハクウンボクの小枝にできる、珊瑚のような形の虫こぶと言う意味です。アブラムシ類が取り付き、刺激を与え、ハクウンボクの組織が異常に増殖したものです。虫こぶを作る生物(形成者)は虫だけでなく、ダニ・線虫・菌類・細菌などもあることが分り、総称してゴール(Gall)と呼んでいます。ゴールの命名法は、寄主植物名+形成される部分+形態的特徴+フシ(ゴール)。始めて出合ったゴールは、ナラメリンゴフシといい、ミズナラやコナラの芽にできるリンゴのようなゴールで、ゴール形成者の名前は出てこないものの、ナラメリンゴタマバチといいいます。今では、長いカタカナの名前も実体をとらえた、解り易いように思います。

ボランティア・レンジャー育成研修会

平成24年度 受講者募集



北海道には豊かな自然がたくさんあります。この豊かな自然をより多くの人に楽しんでもらい、また自然環境を大切にしてもらうために「ボランティア・レンジャー（自然解説員）」が、各方面で活躍しています。

今年も自然ふれあい交流館や野幌森林公園をフィールドにして「ボランティア・レンジャー」を育成する研修会を開催します。「自然」に興味・関心がある方、自然の中でボランティア活動をやってみたい方など、初心者向けの内容となっていますのでお気軽にご参加下さい。

人と自然との橋渡し役でもある「ボランティア・レンジャー」になりませんか！

◇開催日 平成24年8月24日（金）～26日（日） 3日間の研修会です（雨天決行）

◇場所 自然ふれあい交流館、野幌森林公園

◇内容
 24日（金） 自然と楽しむ「アウトドアゲーム」、安全管理のための「救急法」
 自然やガイド方法に関する「講演」、
 25日（土） 自然体験・観察の「プログラム作成と解説方法」
 人と自然との関わり方の「観察会」・「夕方ウォッチング」
 26日（日） 「プログラムのフィールド発表」など
 ※詳しいプログラムは裏面に記載しております。

◇費用 無料
 ※宿泊費、現地までの交通費、食事代などは各自負担願います。
 ※各当日は原則、現地集合、現地解散となります。
 ※自然ふれあい交流館（大沢口）の駐車場は無料。

◇定員 30名（受付期間：6月1日～7月31日 なお、定員になり次第締め切り致します。）

◇対象 3日間通して参加できる方、満18歳以上で自然に興味・関心がある方

◇申込方法 ご希望の方は電話にて下記の必要事項を記入の上FAXでお送りいただくか、お電話で必要事項をお伝えの上、お申し込みください。

◇その他 当研修会に受講された方には、受講証と自然解説員のバッジを交付いたします。また「北海道ボランティア・レンジャー協議会」への入会も可能です。（希望者のみ）

主催：自然ふれあい交流館 共催：北海道ボランティア・レンジャー協議会

★お問い合わせ・お申し込み★

野幌森林公園 自然ふれあい交流館 (<http://www.kaitaku.or.jp/nfpvc.htm>)

〒069-0832 江別市西野幌 685-1 電話) 011-386-5832 FAX) 011-388-7058

（キリトリ）

お申込される方は、下記の申込票にご記入いただき送付いただくか、記入内容を電話でお伝えください

ふりがな 氏名	性別 男・女	年齢	才
住所：〒	電話番号： 緊急連絡先(携帯電話等)：		
来館手段： 公共交通 ・ 自家用車 ・ 自転車 ・ 徒歩	職業：		

ボランティア・レンジャー育成研修会 2012 ～プログラム～

○1日目 [8月24日(金)]・・・場所：自然ふれあい交流館、野幌森林公園

時間	内容
9:30～10:00	集合・受付（自然ふれあい交流館）
10:00～10:20	開講式・オリエンテーション
10:30～12:00	野外実習【アウトドアゲーム】 ～自然とのふれあいを楽しむ
12:00～13:00	休憩（昼食）
13:00～16:00	救急法（普通講習）
16:10～17:30	講義【自然ガイドで何を伝えるか】 講師：島田明英氏（自然ウォッチングセンター代表）
17:30	終了・解散

○2日目 [8月25日(土)]・・・場所：自然ふれあい交流館、野幌森林公園

時間	内容
9:30～10:00	集合・受付（自然ふれあい交流館）
10:00～10:10	オリエンテーション
10:10～11:30	野外実習【自然観察会】 ～ボランティア・レンジャーの活動の実際 ～自然体験活動の指導法
11:40～12:30	講義【自然について】
12:30～13:30	休憩（昼食）
13:30～14:00	講義【プログラム作成と解説方法（導入）】
14:00～17:30	実習【プログラム作成と解説方法】 ～模擬ミニ解説の実演～ ～グループワークによるプログラム作成～
17:30～17:50	休憩
17:50～19:00	野外実習【夕方ウォッチング】
19:00	終了

○3日目 [8月26日(日)]・・・場所：自然ふれあい交流館、野幌森林公園

時間	内容
9:30～10:00	集合・受付（自然ふれあい交流館）
10:00～10:10	オリエンテーション
10:10～11:30	実習【プログラム作成】 ～グループワークによるプログラム作成～
11:30～12:30	休憩（昼食）
12:30～15:00	発表【フィールド発表】
15:00～15:30	ふりかえり
15:30～16:00	まとめ・講義 【北海道ボランティア・レンジャー協議会と ボランティアを行うにあたって】
16:00～16:30	閉講式・解散

※天候や主催者側の都合により、プログラムを変更する場合があります。

- ◇持ち物：野外活動に適した服装（長袖・長ズボン）、雨具、昼食・2日目夜の軽食など
- ◇アクセス：新札幌バスターミナル北レーン10番乗り場よりJR北海道バス「文京台循環線」乗車、
[文京台南町]下車、徒歩10分

☆お申込みされた方には、開催1ヶ月前を目途に詳細な内容・プログラムなどを送付いたします。

指定管理者制度が導入され、一般財団法人北海道開拓の村が、自然ふれあい交流館を管理運営しております。

自然観察 NOW

野幌森林公園自然情報

平成24年度 No1

平成24年4月26日発行

北海道ボランティア・レンジャー協議会

「春よ来い！早く来い！」と子供も大人も叫んで、今か今かと待ちわびた春が、北国の街にも、森にもやっとやって来たようです。野幌の森をすっぽりと覆っていた雪も雪解けが少しずつ進んで、春を告げる花々が咲き出してきました。森には、その花々と“春”を演出する野鳥たちの“囀り”（さえずり）の声も響いています。森の花たちを見、鳥たちの囀りを聞いていると、わたしたちもなぜか気持ちの高ぶりが感じます。生きものたちにとって、今“待ちに待った春の到来”です。

今日は、春の主役の“野鳥たち”を紹介しましょう！

春を告げる野鳥

◎ 春にやって来る鳥たち（夏鳥）

春を告げる鳥といえば、ウグイスが代表ですが、ウグイスは、南から渡ってきて、繁殖するために北海道にやってくる渡り鳥です。春に渡って来て北海道で夏を過ごし、秋南方へ渡って越冬する鳥を「夏鳥」といいます。ヒバリやツバメ、カワラヒワやアオジ、オオルリやルリビタキ、カワセミなども“夏鳥”です。ちょうど今、北国の森に春を運んでくるたくさんの「夏鳥」が渡ってくる季節になりました。これからの時期は、野幌の森できれいな鳴き声や美しい姿を楽しませてくれることでしょう。



◎ 春を告げる鳥の“ふしぎ”を探る

ところで、この春の時期には、ジジュウカラやヒガラなどの「留鳥」（1年中北海道にすんでいる鳥）の鳴き声が、“艶やかな声”に変わってきたように聞こえます。「夏鳥」のウグイスも、ひととき大きな声を張り上げて鳴いています。それは何故なのでしょうか？

ここでは「鳥の“ふしぎ”クイズ」を考えながら、鳥たちの“ふしぎな生態”を知って少しでも春の鳥に近づきましょう！

Q 鳥はなぜ、春になると“さえずる”の？

(答え) ①雄が雌を引きつける“求愛行動”のため

②雄が自分の“なわばり”の宣言をして、他の雄の立ち入りを禁止するための信号等

※ 鳥の鳴き声には、“地鳴き”と“さえずり”があります。“地鳴き”は雄・雌とも1年中鳴いて、夫婦や家族のコミュニケーションや警戒音などの役目をします。

“さえずり”は雄だけが鳴き、雌に対してのプロポーズの声です。

※ “さえずり”をしない鳥もいます。キツツキ類は“ドラミング”といって木を嘴でつついて音を立てて雌にプロポーズをします。

Q 鳥はなぜ、雄の方が雌よりきれいなものが多いの？

(答え) ①美しい雄は雌によって配偶者(結婚相手)として選ばれることが多いから

②雌は抱卵・子育ての時間が長いので、敵の危険を避けるために、体は地味な色の方がいいから等

※ 鳥の中には雄も雌も地味なものもあります。そんな鳥のウグイスなどは、美しい“さえずり”の声で、またジジュウカラは、胸のネクタイの太さなどで選ばれたりします。

野幌の森の夏鳥たち

◎ 野幌の森の主な“夏鳥”

春4月から5月にかけて渡って来るのは、カワラヒワ・キジバト・アオジ・アオサギ・メジロ・ウグイス・カイツブリ・キセキレイ・ノビタキ・オオジシギ・ヒバリ・クロツグミ・オオルリ・センダイムシクイ・ヤブサメ・アカハラ・イカル・キビタキ・ビンズイ・コムドリ・コサメビタキ・ニューナイスズメ・モズ・ベニマシコ・ルリビタキ・ツツドリなどがいます。

初夏の6月になると、オシドリ・カワセミ・ホオジロ・ホオアカ・トラツグミ・コルリ・コノバズク・ヨタカ・アオバトなどが渡ってきます。

では、今回はその中の3種の鳥を紹介します。

○ キジバト（雉鳩） ハト科 ※本州中部以南では、留鳥

（命名の由来）は、羽の模様がキジの雌に似ているから。平安時代からヤマバトと呼ばれています。

雄・雌ともに、全体が褐色で翼がうるこ模様、首に青白黒のしま。尾の先は白い。

“さえずり”は低く眠そうに「デデッポーポー」鳴きます。

首を前後に振って歩きます。これは、物や景色をはっきり見るためと言われています。

水を飲む時は、嘴を水につけたままゴクゴクと飲みます。

ハトの仲間、「ピジョンミルク」という“ハトの乳”で子育てをするという不思議が習性を持っています。これは、ひなが生まれると食道の“そのう”に一時的に食べ物貯え、その内壁にできるチーズのようなものを与えて子育てをします。これは雄・雌とも持ち、両方で子育てをします。

○ メジロ（目白） メジロ科 ※本州以南では、留鳥

（学名）は、「日本の輪のある目を持つ鳥」。（命名の由来）は、目のまわりに白い輪があるから。

雄も雌も同色。鳴き声は複雑で、“さえずり”は「チーチュルピーチュル」と繰り返して長く鳴きます。“聞きなし”は「長兵衛、忠兵衛、長忠兵衛」と聞こえると言いますが、さてどうでしょう？

甘いものが大好きで、桜の花の蜜や椿の蜜も吸います。舌の先は花の蜜を吸いやすく筆状になっています。桜の咲くころによく食べる「うぐいす餅」はウグイスの色からの名と言いますが、あの鮮やかな萌黄色は、地味なウグイスではなく、実はメジロの羽の色から取ったようです。

ちなみに小笠原諸島には日本固有種の「メグロ」という鳥がいます。

○ キビタキ（黄鶺鴒） ヒタキ科 ※種子島から八重山諸島では、留鳥

新緑の林で黄色い胸をはって、軽やかにさえずる小鳥。

そのすてき声から“森のピッコロ奏者”の愛称で呼ばれています。

“さえずり”は、「ホッピリリ ピピロピピロ」とか「オーシンツクツク」などと複雑な明るい声で鳴きます。

（命名の由来）は、雄のまゆ・胸・腰があざやか黄色のヒタキだから。雄の体の上面は黒く、まゆ・胸・腰は黄色。雌は全身がオリーブ色です。林にすみ、昆虫を見つけると飛びついてとらえます。これを「フライキャッチ」と呼びます。

雌への求愛行動として雄は胸の羽根をふくらませて“自分が強い”というところを見せつけて求愛行動の「ディスプレイ」をします。

※ 以上、「夏鳥」のほんの一部を紹介しました。それでは、どうぞ森へ出て、じっくり素敵な声やすがたを見てください！



★5月の観察会

☆「春のありがとう観察会」5月13日（日）10:00～12:30（集合：野幌ふれあい交流館）

☆「恵庭公園観察会」5月20日（日）10:00～12:00（集合：恵庭公園中央駐車場）

☆「三角山登山観察会」5月27日（日）10:00～14:00（集合：緑化会館前登山口）

自然観察 NOW

野幌森林公園自然情報
平成 24 年度 NO.3
平成 24 年 6 月 3 日発行
北海道ボランティア・レンジャー協議会

○ ○ ドングリの木・・・ミズナラ (ブナ科)

日本の温帯林を作る代表樹種の 1 つ。この辺でも普通に見られる。寿命は 1000 年とも言われる。多量の水分が含まれ、容易に燃えないため水楢、など諸説あり。ドングリをつくる近縁のコナラはだいたいこの辺が北限、カシワは全道的にあるものの海岸沿いが多い。葉柄は、コナラは有柄、他の 2 種はごく短い。葉の鋸歯は、カシワは波状、他の 2 種は尖る。葉の大きさはそれぞれ異なる。冬芽は 3 種共に五角錐形で周りに頂生側芽がある。本種は木目が美しく、加工しやすい。高級家具、フローリング、ワイン樽、シイタケのほだ木などに利用。



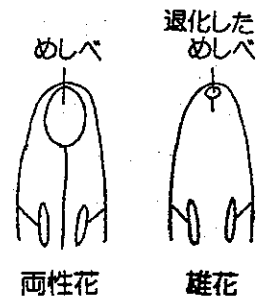
ミズナラの花

雄花は新枝の始まりに下垂、雌花は新枝の先の葉の間にあり (図)、5~6 月に開花。雄花が垂れ下がっている頃、雌花は分りにくいのですが、枝先の葉のかたまりの間を探して見て下さい。

ドングリ (団栗) …ナラ・カシ・クヌギなどの果実の総称。ドングリは渋味が強く、生や焼いても食べられません。1 万年ぐらい前、縄文時代、大型の動物を食べつくし、人類の生存が危なかったとき、ドングリを食べた。土器で煮ると渋味が抜けた。アイヌの人達も渋を抜いて、デンプンを取り出し食料とした。また、野生動物 (クマ・シカ・リス・ネズミ・カラス・カケス) の重要な食料。

○ ○ 養分を有効に活用・・・オオアマドコロ (ユリ科)

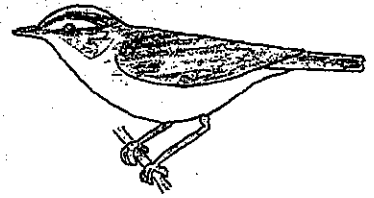
太い根茎を持ち、茎は角張る。高さ 60~100cm になり、上の方は弓状に曲がる。葉裏の小脈上に小突起あり、花の長さ 2.5cm。茎の下部はおしべとめしべを持つ両性花を付け、上部は退化しためしべを持つ雄花が付いている (図)。本種は自家不和合性で、同じ株の花粉では種子ができず、他の株の花粉が必要で、ハチに運んでもらう。茎の上部は



果実を作るための養分が不足しがちという。上部に両性花を付けると、めしべは無駄になってしまう。しかし、上部におしべを付けて、花粉親になる機会をつくるという戦略を取っているという。ヤマノイモ科のオニドコロ (トコロ) に似た根を持ち、その根が甘いので→アマドコロ。より大型なので→オオ。アマドコロは小形、茎の高さ 30~80cm、花の長さ 2cm 以下、葉裏の小脈上に小突起なし。山菜としては若芽 (はかまから葉が出た頃)、花 (5~6 月)、根茎 (いつでも)。毒草のホウチャクソウ (ユリ科) が似ているので注意が必要です。

○ ○小さな夏鳥・・・センダイムシクイ (千代虫食) ウグイス科

チヨチヨ (千代) と鳴き、虫を食べるので→センダイムシクイ。仙台とは無関係。頭に灰緑色の頭中央線 (他のウグイス類にはない) あり。体重はわずか10g (10円玉1ヶ5g)。林の中、上層部で採餌。芽などは食べず、虫だけではないだろうか。ウグイス類は水平の姿勢で止まる。水を飲む時以外地上にはめったに降りない。枯れ葉、草、樹皮で入り口と出口のある球形の巣を地上の窪みに造る。♂は餌運びをする。聞きなしは「焼酎一杯グイー」。繁殖地は日本、朝鮮、中国東北。越冬地は東南アジア。

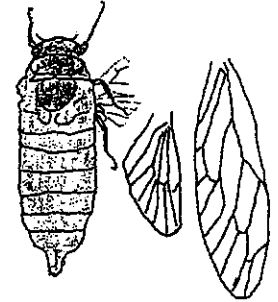


センダイムシクイ

ヤブサメ (ウグイス科) は地上で「シシシシシ…」とさえずる。体色はセンダイムシクイに似ている。日本で2番目に小さい小鳥で体重は8g。繁殖地、越冬地ともセンダイムシクイと同じ。これらの小鳥は何の目的で東南アジアから危険をおかしてまで、わざわざ日本まで来るのでしょうか？

○ ○一番初めに鳴き出す・・・エゾハルゼミ (蝦夷春蟬)

細い管のような口 (口吻) を木の師管 (同化養分の通路) に差し込み吸う。飛び出すときは、おしっこ (吸った樹液) を出し、体を軽くする。鳴くのは雄だけ、樹液のある所を仲間知らせるためや、雌を呼ぶために鳴く。発音は腹部の背中側にある発音膜を振動させ、腹の空洞で共鳴させ大声になる。産卵は枯れ木にする。このセミは他とは異なり初夏 (5月下旬~7月上旬) に出現する。本道では平地に



エゾハルゼミ♂

いるものの、本州では高山帯にいる。太陽が出て気温が上がると鳴き出し、曇るとやむ。17℃以上で鳴き出すという。「ミヨーキン、ミヨーキン、ケ、ケ、ケ…」。セミの捕らえ方…夕方になると木から下りて、草の間で休む、早朝にセミの鳴いていた木の下の茂みを探してみる。

似た体形のヒグラシ (7~8月) は道南や本州方面におり、夕方や朝方に「カナカナカナ…」と鳴き、朝早く起こされることがある。

○ ○これからの自然観察会の案内

期日・時間	行事名	集合場所	備考
8月9日(木)10:15~13:30	夏の森の観察会 (瑞穂の池コース)	開拓の村入口	*昼食
9月9日(日)10:00~14:30	秋の花でにぎわう森を歩こう	交流館	*
10月7日(日)10:00~12:30	芸術の森観察会	芸術の森入口	バス停前
10月11日(木)10:15~14:30	秋の森の匂いをかごう	開拓の村入口	*
11月3日(土)10:00~14:30	晩秋の森観察会 (志文別コース)	交流館	冬芽

お問い合わせでご参加下さい。内容はいずれも、草花・樹木・野鳥。*印は交流館との共催。



～ 事務局 便り ～



<お知らせ>

① 昨年度から全会員の保険加入を中止し観察会の参加者のみ行事用保険に加入しております。しかしボランティア活動中に他人に対して損害を与えたことによる損害賠償問題が発生した場合に対応できるように、ボラレンの観察会や研修会に一度でも参加を予定している会員にはボラレンの費用でボランティア活動保険に加入をすることが役員会で決定しました。

今年度はすでに3か月過ぎましたが8月を目途に加入希望者は「ボランティア活動保険」の手続きをしますので、同封のハガキで申し込んで下さい（締切り7月末まで）。

② キノコ研修会について

道民の森に詳しい会員、松原健一さんがキノコについて解説と案内をして下さいます。

日 時 9月19日(水) 10:00～14:00

集合時間 9時45分

集合場所 道民の森(月形地区、陶芸館前駐車場)

交 通 公共交通機関はありませんので乗用車でお願いします。相乗り希望の方はその旨申し出て下さい。乗用車で参加の方はご協力下さい。

その他 昼食持参、長袖、長靴、虫よけ対策を。

※ 申込みは9月5日まで同封のハガキでお願いします。

※ 問い合わせは事務局 室野文男 電話 011-897-7186

メール fum-murono@hokkaidou.me

③ 8月～3月の話題提供の方々とテーマは以下の通りです。

8月 8日(水)	田村允郁さん	「木の指標」
9月 8日(土)	土屋忠司さん	「カンタン」
10月10日(水)	宮本健市さん	「昆虫」
11月10日(土)	小林英世さん	「ゼフィルス」
2月16日(土)	春日順雄さん	「雪について」
3月23日(土)	佐藤清一さん	「雪の生活と文化」

編集後記

- 表紙は新しく役員になられたクローズ千鶴子さんに描いてもらいました。今後、表紙には彼女のステキな絵画を載せていきたいと考えています。
- 先日、私たちの協議会を創世期から牽引されてきた元会長の大友健さんがお亡くなりになりました。大友さんと一緒に活動された顧問の田村允郁さんから「大友健氏を偲ぶ」という追悼文をいただきました。

私は広報担当として、「20周年記念」特別号に原稿をお願いしました。私たち協議会の活動を温かく見守る内容の「森の生態をながめて」をいただきました。

その後、森林資源の重要性に関する論文「森林事業を推進して」を寄稿してくれました。「エゾマツ」79号に掲載しています。ボラ・レンの発展に尽力され、温かく見守ってくれたことに感謝しています。ご冥福をお祈りいたします。
- 「ボランティア保険」の加入に関して
 - 一昨年は、会員全員が加入しましたが、財政上のこともあり、今年度は活動上必要な人（希望者）のみが加入することになりました。
最後のページにある<事務局便り>の最初の①をよく読んで、加入希望者は7月末までに同封のハガキで申し込んでください。
- 今年度の鷓川での研修会の宿泊所が「ふれあい町民会館」ではなく、案内のハガキなどにあるように「むかわ交流館」(むかわ町美幸4丁目、今回の「エゾマツ」101号にも正しいのを掲載)ですので間違いのないようにお願いします。
- 今年、初めて行われる「北大雨竜研究林研修会」、や「鷓川海浜植物観察と干拓地の整備」などに参加して、楽しみなら実践的知を高めていきましょう。
- 次回の発行は10月下旬です。10月15日まで広報部、北広島佐藤 まで原稿をお送りください。

「エゾマツ」 2012年6月

27日 発行

夏季号 101号

会長 春日 順雄

広報部 佐藤 清一